

# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 8 月 23 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	3000 円
支出内訳	慶應義塾全国議員連盟 視察研修会会費
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

# 領収書

令和5年8月23日

魚津市議会議員 越川 隆文 様

¥3,000 円

但し、慶應義塾全国議員連盟 視察研修会 参加費として  
上記金額正に領収いたしました

慶應義塾全国議員連盟

副会長（視察研修会幹事）

田口


浜松市西区入野町 9860-



## 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 8月 23日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	運賃 宿泊料
金 額	52,810 円
支出内訳	政務活動費旅費計算書添付
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名           越川隆文

# 政務活動費旅費計算書

会派名

越川隆文

金額

52810 円

(1人あたり)

52810 円)

用務	慶応義塾全国議員連盟視察研修会				
旅行先	袋井市・浜松市・静岡市				
旅行期間	令和5年8月23日～ 令和5年8月25日( 2 泊 3 日)				
種別	区 間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計
鉄道賃	自 電鉄魚津 駅 至 新黒部往復 駅	810 円	円	円	810 円
	自 黒部宇奈月温泉 駅 至 東京往復 駅	18,330 円	円	円	18,330 円
	自 東京 駅 至 袋井 駅	7,800 円	円	円	7,800 円
	自 浜松 駅 至 静岡 駅	2,330 円	円	円	2,330 円
	自 静岡 駅 至 東京 駅	5,940 円	円	円	5,940 円
車 賃	区 間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合 計
	自 至	円	円	円	円
宿泊料	2 泊分				17,600 円
その他(駐車料金等)	(内訳)				円
備考					
合計	52,810				円

旅行議員氏名 越川隆文



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

承認印	
会派会長	経理責任者
	

領収書 越川隆文 様

Receipt  
領収年月日 2023.-8.25  
金額 ¥2,330 (消費税等込み)

購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(40543 1枚)  
東海旅客鉄道株式会社  
浜松駅  
浜松線MV8発行 50544-01

印紙税申告納  
付につき名古屋中村  
税務署承認済

領収書 越川隆文 様

Receipt  
領収年月日 2023.-8.23  
金額 ¥18,330 (消費税等込み)

[クレジット扱い]  
購入商品 JR乗車券類 JR tickets

(00308 5枚)  
西日本旅客鉄道株式会社  
黒部宇奈月温泉駅  
黒部宇奈月MK1発行 20310-01

印紙税申告納  
付につき大淀  
税務署承認済

No 209242-1

ご利用明細書

北の庭 THE KURETAKESO

Description

〒430-0927 静岡県浜松市中区旭町7-1  
TEL053-453-7211 FAX053-453-7212

お名前 (Name)

越川 隆文

様

お部屋 Room	ご到着日 Arrival	泊数 Nights	ご出発日 Departure	人数 Persons	発行日 Issue	担当 Clerk	ページ Page
508	2023/08/23	2	2023/08/25	1	2023/08/25	萩田 壮登	1

日付 Date	お部屋 Room	ご利用明細 Description	単価 Unitprice	数量 QTY	金額 Charges	入金 Payment
08/23	508	ご宿泊料	8,800	1	8,800	17,600
		クレジット				
08/24	508	ご宿泊料	8,800	1	8,800	
ご署名 Signature					ご利用合計 Total	ご請求額 Balance
会社名 Firm					17,600	0

キリトリ線

No 209242-1

領収書

お名前 (Name)

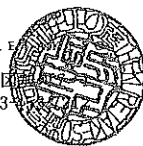
越川 隆文

Receipt

様

北の庭 THE KURETAKESO

〒430-0927 静岡県浜松市中区  
TEL053-453-7211 FAX053-



予約金・前受金 Advance	クーポン Coupon	クレジット Card
売掛金 Credit	ご返金 Repayment	領収額 Receipt
		17,600

発行月日 (Issue)  
2023/08/25

収入  
印紙

領収書 No 129  
窓口 No 2  
駅 No 5201160

領 収 書

越川隆文 様

金額 ￥5,940円  
「消費税等込み」

但し、乗車券類(クレジット扱い)として

2023年 8月25日  
東海旅客鉄道株式会社

ご利用いただきましてありがとうございます

印紙税申告納  
付につき名古屋中村  
税務署承認済

静岡駅

現金出納社員



領収書  
ご利用日付 2023年08月23日  
時刻 16時46分  
取引内容 乗車券 金 330円  
伝票番号 53531  
袋井駅 券102発行  
JR東海  
●この領収書は大切に保管してください。  
●毎度ありがとうございます。

領収書 No 111  
窓口 No 364  
駅 No 440101

領 収 書

越川隆文 様

金額 ￥7,470円  
「消費税等込み」

但し、乗車券類(クレジット扱い)として

2023年 8月23日  
東海旅客鉄道株式会社

ご利用いただきましてありがとうございます

印紙税申告納  
付につき名古屋中村  
税務署承認済

東京駅

現金出納社員



05. 8. 23

### 乗車券発行証明書

越川隆文 様

富山地方鉄道株式会社  
電 鉄 魚 津 駅

下記の乗車券を発行したことを証明します

種別	発行金額
定期券	
回数券	
乗車券	¥810
その他	

2023 年 8 月 26 日

## 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名越川隆文

議員氏名越川隆文



以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	2023年 8月23日 ～2023年 8月25日
調査研究、研修、要請・陳情活動先	袋井市役所・浜松市役所・浜松いわた信用金庫 FUSE・静岡県庁・静岡県地震防災センター
参加者	越川隆文（慶應義塾全国議員連盟幹事長）
目的	慶應義塾全国議員連盟として視察研修を企画し、人口増・起業家育成・行政区の整理統合・点群データ活用・防災対応などを学ぶ
調査研究、研修、要請・陳情活動内容及び考察	添付を参照願います。

※ 調査研究、研修、要請・陳情活動のため旅行した場合に作成し、収支報告に添付（任意様式可であるが、おおむね上記様式に準ずること）

2023年8月23日袋井市役所訪問

- ① 子育て支援（教育委員会・子ども未来課）：子育て支援施設が充実している。子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩み等を相談できる施設。季節のイベントや育児講座も開催。このような子育て支援センターを市内に11か所配置している。市民による子育て支援への参画が図られている。産業誘致や区画整理による優良居住区域の造成とともに、幼稚園から保育へ子育てのニーズが変化してきており、かつ出生数の減少から施設の整理統合とともに、待機児童数ゼロを達成した。
- ② 都市計画（都市計画課）：袋井駅南地区まちづくり事業 袋井駅南北自由通路及び橋上駅舎化事業の展開 状況：中心市街地が線路で南北に分断。駅南は区画整理が行われていなかった。都市基盤整備が必要。駅北は東海道側であり宿場として栄えた。これらを解決するために南北自由通路及び橋上駅舎化事業を通して駅舎の利便性を高め、袋井市南北一体化と交流人口の増加。また駅南の都市基盤整備を通じた居住区増設と商業施設やメディカルゾーン誘致を行う。
- ③ スポーツを活かしたまちづくり（スポーツ政策課）：5万人収容のエコパをフルに活かしたまちの活性化策。ラグビーワールドカップなどのビッグイベントやジュビロ磐田などのプロスポーツとの提携で交流人口を増やす一方で、市民スポーツ振興にPFIを導入し、袋井市総合体育館事業を立ち上げる。これらの恵まれたスポーツ基盤を活用したスポーツツーリズムにも挑戦している。
- ④ 人口減少地域の活性化対策：子供交流館あそびの杜建設事業（生涯学習課）新生袋井市は2005年に旧浅羽町と合併してきた。旧浅羽町役場は浅羽支所として行政機能を果たしてきたがそれを袋井市役所に移管し、新たに子育て支援とにぎわいの拠点としての役割を担う施設にすべくリノベーションする。令和7年度をめどとして整備する。
- ⑤ 海のにぎわい創出プロジェクト（企画政策課）

：東北大震災を契機として防潮堤整備事業利活用計画の対象エリアとなる。防潮堤整備の歓声目途が立ち、今後は負のインフラというイメージを払しょくし、海浜の資源を未来につなげる明るいものとしていくためのハード及びソフトの事業を盾挙げて袋井市の海の魅力を発信していく。

最後に、慶應義塾大学OBでもある大場規之市長のお話を伺った。人口増を達成している全国でも有数の自治体としての秘訣は、やはり産業振興であった。スポーツスタジアムエコパの誘致を始めとして、新駅の増設、駅南地域の都市基盤整備事業と袋井駅の自由通路及び橋上駅舎化事業などの産業基盤と商業施設、住環境の整備がリンクしており、人口増への諸条件が整ったところへ、子育て支援施設を整備するなど、手厚い子育て支援政策を実施している。それらがお互いに相乗効果を生み出し、全国でも有数の人口増加の袋井市を築き上げた。同じく人口増加で有名な、明石市の人口増加の施策とは手法の順序が違うが、結果的に住民の子育てに対する持続的な安心感を与えることに成功していると言えるだろう。

8月24日



## 浜松いわた信用金庫が運営する創業支援施設「FUSE」視察

事業を立ち上げようとするすべての人が利用できる。イノベーションハブ。中小企業の第二創業や新規事業展開に寄与するための施設。浜松は輸送機器中心のメーカーがあり、エンジン回りの環境の大転換に直面している。3万点の部品のうち2万点を作っている業者さんがどうなるかが焦点である。ここに金庫側として何かできないかということで立ち上がった。

シリコンバレープロジェクトから理事長がたまたまシリコンバレーを訪問し、日本より5年10年進んでいたことに衝撃を受けて、職員を派遣した。3人目、4人目の職員がスタートアップのエコシステムを作る時に人が集まる場所が必要だということで、収支は度外視して、10年後20年後の成果を期待して投資した。9名の職員を充てている。

経産省に出向した職員や浜松医科大学へ出向させた職員などいろんなジャンルで対応できるメンバーがそろっている。

会員は250人近くになる。校正は中小企業が3割で、スタートアップ企業。地元だけではない。浜松市が力を入れている。しかし開業率が落ちてきている。なんとかしないと前市長が力を入れた。ファンドサポート事業。VCをあらかじめ認定する。官が認定するのは難しい。46社の認定。同額の官が交付金を出します。4000万2000万1000万円年間2億円の予算で4期目。首都圏からのものも来る。10年間は活動をしてもらう。そのための拠点としても稼働している。

2021年の7月に有料化した時に浜松市と提携した。浜松市もスタートアップ支援施設を作る意向があったが同時並行で私も民間でもあったので、2000万円のイニシャルコストを出して、ここだけではなく浜北商工会議所も含めてベースとしたことから始まる。

大学も行政関係者支援機関、ジェット口とかも無料で使ってもらっている。

講演会年間100件で2000名の参加、初年度160件2年目で500件。金融付随業務として、金融庁や日銀や東海財務局も後押ししてくれる。総務省の戦略的情報通信拠点としても認められている。

想像ベンチャーから東海岸から来てもらっている。中小企業とデザイナーとのマッチング。BtoBからBtoCへデザイナーから発信してもらおう。できたものはECサイトで発表する。ビジコンをやる。伴走支援を強化したプログラム。などなど、詳細については添付のEVENT NEWSをご参照願いたい。

スポーツ系のスタートアップもあり、会員ではなく一般の方も集めて来月には農業系をやろうと企画している。口コミでみんな来てくれる。ヤマハなどの大手企業からも来てくれる。

質疑応答：信用金庫は理事長の権限が強いので、初めてできた形態です。地銀では無理である。信金そのものは金融業から総合サービス業へ転換しようとしている。その第一線を行っている。ソリューション支援の新産業創造室（本部組織）が展開している。付随組織として地域商社を立ち上げながらやるのが今後はいいのではないかと自分では考えている。

信金の方はどのような仕事をしているのですか。

いろんな人との人脈づくりです。スタンフォード大学まで職員が入って研究室での人脈を作り、VCに投資し、はじめて認められる。

地域のために何かをできないかが主体だが、その上に信金の人材育成。シリコンバレーへの人材派遣も支店の職員から選抜した。

事業化しなければ意味がないのではないか。そのあたりどのように考えておられますか。

ススキは300名ぐらい通算で派遣している。浜松磐田信金からは4名。金庫としてどうやって地域に還元していくかが使命だと考えている。

Fビズはどうなりましたか。フジさんも来られました。

越川質問：銀行の中の一部門としてやってらっしゃるのですか。であるならば銀行のなかの決算の中で事業実績をみられるのですか。

取り込まれていますね。細かいところまでは読み取れないと思います。

ここまで信金さんでやっていらっしゃることに驚きを覚える。そしてこの活動が融資につながるとしてそれがどのように成果としてどういう評価されるのですか。

融資は営業店に振る。本店営業部の成績になる。ファンド出資もあるが、その成果は長期的なものだ。中小企業やスタートアップ企業にもファンド出資残高はある。

逆に言うところを整理していただければ、ビジネスモデルとしてわかりやすくなるのかなと展開もできやすいかなと。必要だと思いますよ。魚津市でも三太郎塾とか富山県でもやっていますが、なかなか、来てもらって教えてもらってじゃ、一緒に場所でやらないと、ケミカルができるのも必要です。

補助金はイニシャル2000だけ。交流とかはないんですか。ソフト事業はスタートアップ推進課と公約を結んで、市のほうのソフト事業。3000万とか5000万円のソフト事業を場所を使いながら、スタートアップサロン事業。東京のスポーツ。地域の大手系の方が

地銀と一緒にやるという手もありかなと。全国に他に例はあるのですか。京都信金さんの河原町支店に京都市役所の交差点の真向かいにビルを建てて、6階に支店があり、一階がカフェ、2、3階が大学生だけが使えるとか、信金とNPOが連携して運営している。

あるいは多摩信金も小規模。

政府からは何か言ってきませんか。頑張ってくださいと。ほかの信金さんにやってほしいと言ってくれということがあって講師に派遣されることはある。

地場からスタートアップをどうするかに力を入れている。大学発ベンチャー、大学の研究室に入って、静岡テックグランプリに発表しませんかと勧誘し、自分だけの研究じゃなく、社会に還元する必要があると意識を持ってもらえることもある。

会員数は多すぎてもダメですよね。確かに手狭になってきています。目標は300。常に会員皆さんが使っているわけではない。Webの活用や個室としては3年をめどに出してもらう契約としている。

入ってこられた方はどのような目的で来られているのですか。口コミで入ってきて、会員同士のつながりを求められる方が多い。

ICT関係の人材育成を静岡県が取り組みたいとのこと。三島にも民間でコワーキングスペースが立ち上げられている。これらをつなぐ試みもある。

今後はこのようなネットワークづくりが重要だ。ただ、今後コストセンターだと認識してもらってはいるのだが、どうしても何か実績を求められるので、どう長い目で見てもらえるかが重要だ。

考察：ものづくりの浜松市ならではの施策だが、基本的に民間銀行の試みであり、その意味では大変ユニークだ。基幹産業を支援しつつ、それを取り巻く環境を利用した起業家育成の場として、また世界への起業の窓口として今後の利活用が期待される。富山県では新世紀産業機構がある。魚津市としてもそのような施設とより連携を深める必要がある。ゲーム産業を始めとした試みを続けているが、効果が見えにくいとも言われている。また企業誘致も魚津市にとっては土地の課題があり限界があるとするのであれば、既存の企業育成に重点を置いて、ポリテクカレッジとの連携。また街づくり会社にそのような機能を持たせることも可能ではないか。とにかく自由闊達たる文化が無ければ産業は育たない。YKKが魚津で生まれて黒部で育ったことを忘れてはならない。

8月24日 浜松市役所

浜松市は19年に政令市に移行。天竜市はほとんどが森林である。80万人のうち26000人しかいない。7つの区を統合して3つにするという行政区の改組を行った。

人口減少・少子高齢化、市民ニーズ・デジタル化などの状況があるために区再編の必要性がある。

市の人口ビジョンとしての人口減少を和らげる目的。そして地方自治法では指定都市は区を置いて事務所を設置する縛りがある。しかし、できるだけ区役所の数を少なくしたい。

基本的には市議会で決めるということにした。住民投票もして議論を尽くして決議した。特別委員会の委員長が住民に説明する。

区の再編から住民自治を強化しようという施策を行った。住民に身近なサービス拠点である協働センター等の正規職員を増員し、自治会活動などコミュニティ支援を充実

天竜国副市長を配置した。過疎地域であり、重点地区とするために。議員がそれぞれの立場で地元へ責任をもって説明を行うことが必要である。本当に市民のことを思いながら制度設計をしてそれを理解してもらうことが区の再編事業には不可欠である。

パブコメは区の再編に対しては反応のおおいほうであって、反対論調が多かった。天竜区に副市長を配備した効果は？災害などの対応として安心感を住民に持ってもらった。

考察：行政区の改革は規模の違いこそあれ、今後の魚津市でも取り組んでいくべき課題だ。すでに市民協働というコンセプトが少子高齢化によって機能しづらい状況にある。小学校の統合に合わせて行政区を変える時に今から備えていく必要がある。

8月24日

## 浜松市次世代自動車センター訪問

1億3000万円の予算。2018年に浜松市と静岡市が出資してできた。

次世代自動車の時代に生き残る地域の中小企業を支援する。電気自動車になるとエンジン部品を作っている中小の企業は商売が減る。中小だと売上げの2割が減ると赤字になる。小さいところは1割で赤字になる。それだけ損益分岐点が高い。

中小企業が次世代自動車になってもビジネスを獲得できるように、中小企業が固有の加工技術を使って生き残る。

中小企業がエンジンでシャフトを作っているところが電気自動車のモーターのシャフトを作ればいいのじゃないかと。

高齢者で構成されている。各自動車メーカーの技術系の管理職により構成されている。会員制。入会資格はどなたでも。中核はスズキとヤマハとホンダ。508社が入会中。他県からも入会している。完成車メーカーは会員にはいない。それ以上にコミットしてもらっているから。金属加工業。電気自動車、モーター、などの部品を分解すると作るものがわかってくる。

自動車産業のデジタル化がこの大きなテーマ。物を作るにもPC。デジタル知識が重要になってくる。

カーボンニュートラルもサプライチェーンを通じて目標が明確になっている。中小も目標達成できないと商売しないという時代に。

提案力の向上と収益の向上。つぶれそうな会社には商売は来ない。次世代自動車に搭載する部品の試作。これを通してビジネスを展開する。

試作のスキーム。固有技術探索活動。車両分解活動。ベンチマーク活動。施策費を補助する。チャートに固有技術を書き込む。基礎講座もあり、3か月かかる。70社がこのチャートを書いている。秘密保持契約を伴走支援しながら書いている。小企業には固有技能というものもある。

車両分解活動。700万円かけてドイツ車を購入して解体する。構造上や設計上のどこがいいのかを探索する。中国の部品を侮ってはいけない。分解して分かった。ベンチマークルームの活用。貸し出しもするし、試用してもらってもいい。

技術動向講演会や自動車工学基礎講座を開催。部品開発のテーマ設定。これにより、試作部品等製作委託事業。これにお金を出して公募する。結果をプレゼンするのだが、コーディネーターが伴走する。300万円をマックスに支援する。成果報告会も開催し、業界で情報を共有する。

カーボンニュートラルに貢献できる中小企業。これは理想論だが、これを達成すると省エネにつながるのでコストダウン、収益向上につながる。アンケート調査をやる。再エネとエネルギー交換が行われていない。中小企業による製造時CO2削減計画策定の基礎講座を行う。

デジタルものづくりには人が特に足りていない。人物金の支援。サイバーセキュリティ対策基礎講座。ワークショップもやる。疑似体験をやる。社長とIT担当者が話すいいきっかけになる。

最初にコードを抜くことから。3Dプリンタ実用化プロジェクト。モデルベース開発基礎講座。樹脂成形シミュレーションソフトの活用ワークショップ

これらの講座に参加しないのが、三分の一いるというのが現状である。やってる暇がない。という理由。会員企業数498社のうち一社平均4.8回参加。中小企業に人材を配置できるようにインターンシップ事業を行う。社長一人でやってるところは瀕死の重傷のところを紹介してくれるが、そんなところはもはや救うことはできない。先のことなど考えられない状況に陥っている。この後ベンチマークルームを視察した。

#### 質疑応答

技術支援・開発支援に特化したセンターです。人材育成の施設ではない。従来のものづくりの人材をデジタル人材にすることは課題の一つである。英語で対応できる会社は留学生を獲得できる。

空飛ぶ自動車に関してはどのような展望を持っていますか？もしそのような製品が出てくれば、車と同様に分解からその部品の分析に係ることになる。しかし日本は縦割り行政が障害になっていて中国が先行することになるのではないかと。

中小企業がわかる人がいないと失敗する。このセンターと同じような施設が全国で15ぐらいある。味方プロジェクトというところがお金を出している。広島や群馬が進んでいる。埼玉はあまり力はいってないね。本社が無くて工場があるところを心配している。このあとどうなるのかと。試作から量産展開になる時点でようやく商売に来るので、開発しているところがあると入りやすいね。愛知県が最近入ってくる。デンソー商売が7割のところでも、資本が入ってないところは自分でやらないといけなくて入ってくる。

台数が増えてくると来ると思う。どんなものが来るかなという準備をする必要がある。中産連です。トヨタ系列。したがって資本が入っているところは大丈夫だ。

中国の自動車メーカーには系列があるのか。アメリカにじっちゃんばっちゃんの企業があるか。たぶんない。ある規模の会社はその部品まで作っている。そういう風に収まってくる可能性が多い。ティア3、4のところはティア2が潰さないようにして部品を確保してやると。2割で赤字のところこそばかりになれば立ち行かないからM&A、あるいは畳んでしまおうか。というのは事業承継の中でやるのは大変だからサプライチェーンで構築していかなければならないが、議員さんでは難しいので、それを助けるためのプログラムを考えて欲しい。

産業構造が変わる時はそのような手法とそれを支援するプログラムが必要。存してでも買うとかすると先ほどのチャートが有効になってくる。これはコロナでつぶれるところができるかなと考えて作ったものだ。

考察：自動車産業の集積地であることからこのような施設が大変大きな機能を発揮している。富山県でもこのような施設との連携ができないものか。県内にも自動車部品の製造業があるため、車の産業構造の変化に早め早めに対応すべき。

8月25日

静岡県庁 静岡県デジタル戦略局

参事 杉本直也氏

静岡県交通基盤部政策管理局建設政策課未来まちづくり室 課長代理 佐藤純一郎氏

### 静岡県3次元点群データ事業

静岡県の点群データ事業は、「VIRTUAL SHIZUOKA (バーチャルしずおか)」という構想。これは、レーザースキャナーなどで測量した「3次元点群データ」をオープンデータ化して、仮想空間に静岡県を再現する取り組みである。このデータは、まちづくりやインフラ管理、防災対策などに活用できる。また、誰でも許可不要で二次利用できる商用可能データとして公開されています。

3次元点群データとは、コンピュータで扱う点の集合のことです。物体や地形の形状を、その表面上や内部の観測点の直交座標 (x, y, z) の集合として表現します。点群データは、レーザースキャナーやカメラなどで測量したデータを元に作成されます。点群データは、色の情報 (R, G, B) や時刻などの属性を持つこともあります。点群データは、土木・建築・測量・施設管理など多くの分野で活用できます。

この事業は、2020年度グッドデザイン賞や全国知事会先進政策大賞を受賞しています。この事業は、静岡県とトプコン、日立ソリューションズの官民連携によるオープンイノベーションとして進められています。この事業は、3次元点群データの取得・蓄積・分析・活用に関する技術やノウハウの共有化を目指しています。3次元点群データの利活用は、多様な分野で可能です。例えば、以下のような利活用があります。

測量・土木・建築・施設管理：地形や構造物の形状や変化を把握し、計測・設計・検査・維持管理などに活用できます12。

地理情報システム (GIS)：3次元点群データを基にして高精度な3次元地図や数値地形モデルを作成し、空間分析や可視化などに活用できます。

文化財・自然保護：歴史的建造物や洞窟などの形状や色彩を記録し、修復や保存などに活用できます。

アニメ・CG：実在の物体や風景を3次元点群データとして取り込み、リアルな映像表現に活用できます。

自動車関連：道路や交通環境の3次元点群データを利用して、自動運転や走行支援システムの開発や検証に活用できます。

質疑応答：

越川の質問：静岡県だけの事業ではもったいない。これは国家的なプロジェクトとして政府に取り組むように提言すべきだと考える。そのような動きはまだないのか。

関心を持ってはいるようだが、そのような動きはない。

考察：県内のランドスケープを三次元デジタル化することの有益性は計り知れない。全国でもまだ静岡県だけだとのこと。なぜ国はそれを後押ししないのか。裏金作りに一生懸命になるのであれば、このような政策を推進してもらいたいものだ。国土強靱化との掛け声に死角はないか。

8月25日

静岡県地震防災センター

静岡県地震防災センターは、東海地震に備えるための知識と技術の向上、防災意識の高揚、自主防災組織の活性化を目的として、平成元年に開館した施設です。展示内容は、地震や火山、風水害などの多様な災害に対応するもので、体験型の展示や防災講話などがあります。また、静岡県デジタル地震防災センターというオンラインの防災学習サイトもあります。

静岡県地震防災センターには、地震や津波、風水害、火山災害などの災害に関する様々な体験型展示があります<sup>1</sup>。例えば、以下のようなものがあります。

シアターでは音響もリアルさを表現した全体的な地震のイメージを把握できるような演出があった。まずはこのシアターで地震の臨場感を体験する。

地震体験装置：様々な規模の地震を再現して体験できます。阪神淡路大震災の縦揺れや、東北大震災の余震の状況などがプログラムされていて、バーにつながらないと立っておられないような衝撃を体験できる。

津波模型：津波の発生と被害のメカニズムを観察できます。

風水害シミュレーター：豪雨や河川氾濫の影響を体感できます。火山噴火シミュレーター：火山の噴火現象や火山灰の飛散を見ることができます。実際にハザードマップがWeb上に上げてあって、だれもがシミュレーターにアクセスすることができます。

トイレの重要性を強調してあった。1週間の緊急避難を想定し、使い捨てトイレの備蓄を呼びかけていた。またコロナでセンターの利用者が急減したことをきっかけとして、Web防災シミュレーターを強化し、どこからでもアクセスして災害に応じた対応を想定できるように工夫していた。


考察： このような施設は南海トラフ地震への備えが現実的な地域として欠かせないものである。自助・公助・共助の避難レベルにおいて、住民がまず防災意識と防災技能を持つことが非常に重要である。奇しくも能登半島地震を体験した後にこの考察を書いている。この施設のように形あるもので住民の防災意識を日ごろから啓蒙する施設が富山県にも必要だろう。



# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023 年 9 月 26 日
項 目	① 調査研究費      ② <del>研修費</del> ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費          ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	2,000 円
支出内訳	令和5年度富山県日韓友好議員連盟会費
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

領 収 書

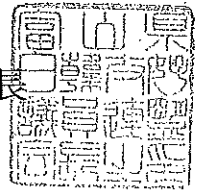
¥2,000-

ただし、令和5年度富山県日韓友好議員連盟会費  
として

令和5年9月26日

越川 隆文 殿

富山県日韓友好議員連盟会長



# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 9 月 26 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	2000 円
支出内訳	令和5年度富山県日台友好議員連盟会費
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

領 収 書

¥ 2, 0 0 0 —

ただし、令和5年度富山県日台友好議員連盟会費  
として

令和5年9月26日

魚津市議会議員

越川 隆文 殿

富山県日台友好議員連盟

会長 中川 忠 昭

令和5年度

富山県日台友好議員連盟

総会・講演会

とき 令和5年7月13日(木)  
午後2時～3時

ところ オークスカナルパークホテル富山  
2階 鳳凰の間

# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023 年 10 月 17 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	29000 円
支出内訳	第28回清溪セミナー参加費
領 収 書	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

2024 年 3 月 27 日

# 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名 越川隆文

議員氏名越川隆文



以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	2023年10月17日～2023年10月18日
調査研究、研修、 要請・陳情活動先	清溪セミナー
参加者	越川隆文
目的	泉房穂元明石市長の子育て支援政策の実体験やその他の子育て支援専門家の講義を受ける
調査研究、研修、 要請・陳情活動 内容	考察も含めて添付をご参照願います。

No. 62

領 収 書

2023年10月17日

富山県

越川隆文 様

¥29,000. —

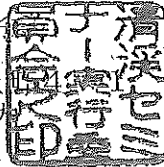
第28回清溪セミナー参加費として上記の金額を領収いたしました

清溪セミナー実行委員会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘

日本青年館内

TEL 03-6452-9012







# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 10 月 17 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	運賃
金 額	18,330円
支出内訳	政務活動費旅費計算書添付
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏 名 越川隆文

承	会派会長印	経理責任者印
認		

政務活動費旅費計算書

会派名 越川隆文



金額 18330 円

(1人あたり 18330 円)

用務	清溪セミナー				
旅行先	東京都新宿 日本青年館				
旅行期間	2023年10月17日～2023年10月18日(泊2日)				
種別	区間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合計
鉄道賃	自 <del>黒刺温泉</del> 温泉 駅 至 東京 駅	18330円	円	円	18330円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
車賃	区間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合計
	自 至	円	円	円	円
宿泊料	泊分				円
その他(駐車料金等)	(内訳)				円
備考					
合計	18,330円				

旅行議員氏名 越川隆文

\_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

承認印	
会派会長	経理責任者
	

領 収 書

越川隆文様

Receipt

領収年月日

2023.10.17

登録番号: T1120001059675

領金額

¥18,330 (消費税等込)

税10%

(クレジット扱い)

購入商品

JR乗車券類

(40487 5枚)

西日本旅客鉄道株式会社

黒部宇奈月MK2発行 - 60489-01

印紙税申告納  
付につき大淀  
税務署承認済

環境の大激変にさらされるのが育児だ。

講師：狩野さやか

子育てアドバイザー・ライター

授乳は1時間ぐらいかかる。ほかに何ができるだろうか。おむつも、あそんであげる。ママの過酷な時間軸がある。この状態が何ヵ月も続く。ワンオペでかかるとかなり限界が来る。このように厳しい時間軸が出る。父親の時間軸が少ない。パパたちが怠けているわけではない。7時間以上働いている。家事をやらないことではなく、時間の組み替えがないところが問題である。自分に収入がないママは、引け目を感じて、育児ぐらいできないと追い込まれる。パパ達は日本の男らしさへのプレッシャーが多い。仕事してるからとか、家庭の外側に剥くようになるのが男らしさ。女性の出産のダメージがない。女性も産むまでこんなことがわからない。

だれでも危険な環境下で育児している。多くの女性が産後不安定になる。パパの環境変化。変化の分量が女性が圧倒的に大きい。男性はより頑張ろうとうれしい変化。ママの方のアンフェア感がましましなんで私だけ？という感情が生まれて、パパは俺だって仕事で忙しいんだと。反撃となる。

妻から夫への愛情が一気に下降する。昭和の男は、子育てになると愛情が子どもに写ると言ったものだが、そうではなく、環境の変化とそれにたいする信頼関係の低下。産後1年目には夫への信頼関係の低下がある。理想は育児期間の信頼関係

1、育児は一人でできる分量ではない2、らしさから自由になる：

男女で1日9時間22分が子育てに使われる。みぞは時間が解決しない。無意識の思い込みあんこんしゃすばいあす。

育児というのは慣れでしかない。数をこなしたもん勝ち。男も女も子育てにかわりない。育児はだれにとっても降りかかるものである。男女隔てなく。介護についても同じことが言える。どうやったら二人で一緒に女性の課題から男女両方の課題へ

しかし、男女イーブンでなくても言い

- 1、育児はひとりでできる分量ではない。
- 2、らしさから自由になる
- 3、女性の課題から男女両方の課題へ

制度はせいかいでも先進の制度が整ったのに、使わないのはだれの心なのか。誰が使わせないので。これができる自治体には子育て世代が集まってくる。

質疑；案紂謝すバイアスをなくすにはどうすればいいのか。

パパたちの意識が会社に波をたてるくらいなら。

中小企業はどうしたらいいのか。

育休は雇用保険から給料が出ている。少ないけど本当にしんどいのは、フリーランスとか、ゼロ円

考察：出産から育児までの期間のパートナーの在り方。とても大切です。こういったソフトの部分に伴走できる環境が少なくなりつつある。地域のつながりが薄くなり、孤立する可能

性が多いと思う。こんな視点からの子育て支援も大切だ。健康センターでの対応を確認する。

### 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援

医療法人、Mパートナー 井上小児科医院（大分県中津市）名誉理事長 井上登生先生  
RESPECTが大切だ。担当担当言うけど、知らんやろが、と、それじゃダメだ。  
覚えることに一生懸命。本当に子どもたちのニーズに合致するかは、また違うこと。母子保健のことをよく知っている人。  
自治体の部署があるが、全体の仕事が中津市の仕事としてある。中津市に支援を求めている。

いろんな施策が出てくるが、その基本になること。最初の1000日スタディ。子どもを持つことを決心した。いかに自分達の人生のためにそれを受け入れていくか。2歳半になるぐらいのところ。第一子をもうけた時。家族に親になるという視点をどうとらえるかということによってその後の事が大きく変わっていく。

そこに、十分な時間とお金をかける。それを大事にしてあげることによって、そこに赤ちゃんが生まれてくるよ。風通しがよくて、日当たりがよく、そこに赤ちゃんを置こうよと。子どもがいるイメージを形にすること。この問題をキチッとやって取り組んでいるところがうまく行っている。先進国であるほど、ああでもないこうでもない、アフリカなどの方がいい。7年間ぐらいで良い制度が整ってしまう。その意味では、後進国の方がいい。

中津は福岡に近いので、両地域が同じ施策をとるケースがある。

児童家庭支援センターやわらぎ

母子保健事業

アンケートを確認しながら妊婦さんの状況を確認

字体などでも知的レベルがわかる。そこも一緒に保健師さんもやってあげるわけ。そんなやりとりのなかで安心感が妊婦にできる。同じようにRESPECTする。お父さんお母さんに成人たちに対するRESPECT

そういう優しさが、SNSでパーツと広がる。

こういう繋がりを作っていくこと。

母子手帳は6年間保存するだけではなく、記録であり、つむぐこと。

保健師さんがなんどもなんども行っている。それだけの事実をみただけで、ニーズが必要なご家族なんだなとわかる。おかあさんの目の前ではなく、いろんな状況をヒアリングすると母子手帳が単なる紙ではなく、考えるツールとなる。

紙がなくなることが、はたしていいのか。電子との役割分担。

健康手帳になったがゆえに、乳幼児死亡が世界最低になった重要なツールである。

こんにちは赤ちゃん訪問事業。20%を越えた要対策協議会が出てきた。特定妊婦と支援が必要だなと言うおかあさんを見分けていくことになる。

母子保健事業養育支援訪問事業研究会

配慮の要る妊婦さん。

虐待をする親を罰するのがアメリカの状況だったのを、予防的に入りましよう。虐待に陥りやすい養育者。自分が不安や怒りを覚えたときの自己コントロール。

7つの命取りになりえる症状  
7 デッドLeeサイン図

1. 独特の激しい泣き
2. 夜中の寝くじり夜驚き
3. 少食・食思不振
4. 分離不安
5. 探索行動
6. 反抗期の行動
7. トイレトレーニング

大事な時期にしっかりとケアしてあげること。

第十条の2。全国の自治体でやらねばならないことになった。

1歳7ヶ月の少女をみていた。ネグレクト家庭でそだった母を持つ母子朝方に寝付く。1歳半検診の時にちょっと呼ばれてそこで錯乱した母親。やわらぎさん、一時家庭訪問担当心理さんがその場に一緒に入ってくれている。こどもや親もおるところで、お母さんの睡眠の確保をしてあげる。まるまる2日間保護。子どもが引き離されてもなににもなかったのに、このケアのあとに母さんにここにこどももなついた。そのときに乳児院に保護してしまったら、母さんが会いたいなとしても、薬を飲んでるので電車でいくと、顔もばれていけなくなる。分離せざるを得なくなる。こんなことが日頃からの連携ができていればできる。

養育者の状態判断におけるチェック項目

助けをもとめることができる。

いろんなチェックをすることが必要だ。

子どものことを一生懸命考えているがゆえに、当事者側からの視点をもつことが必要だ。

子ども虐待への新たなケア

赤ちゃんの幸せには0~3歳の育児が最も大切です。

質問；要胎教の保健師が少ないのではないか。

24万件を10人の保健師で。

要胎教は、中津市の子ども施策の全てに関わる。

考察： 医師が切れ目ない子育て支援の一因に加わっていることは安心感につながるであろう。産婦人科医や小児科医の不足が問題になっている。国への医師補充の要望を引き続き行う必要がある。

● こども家庭庁創設の経緯と役割 参議院議員 山田太郎

児童自殺543名。こどもがなくなる死因の一位が自殺

虐待で61名。妊産婦の死因の一位が自殺。産後うつ、2割以上のママがうつになる。旦那はよそで浮気とこども、共働きでママに蹴寄せが来る。児相の虐待件数が増えたのが明るみになったのはいいことではないか。

旭川市での事件。中核都市でお金がないと、どこで生まれたかで処遇が違うのはどうか。不登校に関しては劇的に増えている。30万件を越えてきた。高校が不登校の嵐である。そのあとの行方がわからない。

スクールカウンセラーがいない。

こどもの精神的な幸福度は低い、幸福ではないからではないのか？

所得が2百万円と生活保護と同じ。ほぼネットで50万票をとった。かい、発信が弱い菅総理政策が問題だ。菅さんの反応がわかりにくい。いたく感動してやりたいと。

こども家庭庁、家庭がなぜ入ったのか。

家庭で亡くなったとかの場所で縦割りになる。家庭関係支出が先進国の半分しかない。それをどうタンポしていくか。せめてOECDレベルにするべきではないか。

自民党は福祉政策などまったく興味がない。

専門審議会を開かないと法案提出できない。家庭になぜ入ったか。コミッショナー問題。学校が機能していない場合補完する場所が必要ではないか。こども基本法。出産は病気ではないので、個人のものであったが、社会として企業も参加して支援する必要があるのではないか。ワンオペで子供を産むのは無理だと悟った。28年間法制化を放棄してきた。すべてのこども基本法が大事である。なぜマスコミはそれを取り入れないのか。政局しか興味がない。

1年半で難産の末できた。デジタル民主主義。4万8000人。東北方面で自民党が負けた理由をリサーチしてきた。23000件集まったと。ネットで国民の意見を集めようと。世論をいれて作り上げたという手法。自治体の協力も得ながら、外堀を埋めて成立させた。公教育の問題もあるが、またの機会に。

教育費の負担の問題。塾に行く、とにかく金がかかる。こどもの命、不妊治療や保育の質。幼稚園と保育園、DBS

縦割横割、年代割り、共働きのなかで出産するとだれがそれを面倒を見るのか。所得も減少し、里帰りしたら産婦人科がない。じいさん婆さんはいない。出産に負担と不安がかかる。離婚が多いのもこの時期で、養育費も半分ぐらいになる。一割ぐらいで二回目以降は払われない。ここに課題が大きくあるということを含めて責任をもつ。育児休暇も民間が責任をもつ。

二点目が、今度は小学校に上がると小一のかべ、修学すると教育の機能が変わる。高校には金がかかる。子育ては家庭の問題であり、公にはサポートする気はなかった。少子化の問題、児童手当、いじめ、DV、市区町村がDVやっても、地元知り合いがいるのでいかない。

自治体だけではできないので、首長の手腕でかわっている。こども家庭庁は何を狙ったのかと。命を守る。この国ではこどもが死なないという国にしたい。ヤングケアラー。こども庁で検討すべきこと。イギリスは福祉大国。CDR、チャイルドレスレビュー、刑訴法47条。個人情報保護委員会では亡くなれば関係ないと。47条は刑訴法47条で、裁判中では出せない。厚労相の2回目ではだめで、ガイドラインをどうするのか。DBSは、やり直し。

LMC、リードマタニティケア、伊達市はがんばってる。携帯を把握し、ママさんを補足している。ネウボラで伴走支援する。両親と子どもがそろって窓口に行く。これは子どもと仲がいいのかということの証明になる。おふすてっど。学校のなかで何がおこっているか、担任にお任せでストレスがかかっている。ドイツはどんどん抵抗している。

コミッショナー、あどぼかしー、先進国を真似ようということ。横割という都道府県と市区町村。人口10万人レベルでないと、ところが、中央値が22000人。旭川市でも手当てを出さないと。

子どもの問題があったときに、担い手がどんな動きをしているか。見つけたのは担任の先生。そこからそうやって行政に繋いで行くのか。役割がよくわからない。スクールソーシャルワーカーがいるのかいないのかわからない現状。いきすぎた指導。指導者の問題。不適切な指導も行われている。厳しくやる意味があるのか？体育会的。学校のなかで虐待が行われているはずだ。虐待は児相があるが、その他は子どもたちが相談するところがない。

福祉警察は110番、子どもたちはSNSをやっている。自殺のけんでは、直接救いに行くのは警察だったりする。児童福祉相談所だけでは虐待の現場に入っていけない。冷蔵庫みれば、わかる。社会福祉だといってもだめ。

これじゃあ、アメリカだ。子ども家庭センターを作ったが、任意であり、必置ではない。各自治体のプロセスをまとめていく最中だ。パブコメをやっていることもわかっていない。行政に繋がってもこんどはそこからだれがどうしていくか、広域のNPOはなかなか繋がりにくい。個人情報保護法で民間に下ろせない。

子ども政策の担い手と、子どもDXと。戸田市。尼崎市、あぶり出すことができる。2021年、苛めに対するもの、縦割り横割の問題ではなく、自治体の担当が放棄したこの意味がある。横割問題を放棄した。いじめは教育委員会でやってくださいと宣言したが、それを繋いでいくということをやった？

子ども基本法、出産を含めて国が行う。企業の協力を記述した。全国が子ども基本法違反状態となっているのが、現状。子ども家庭庁予算。4.8兆円+α。ほとんどプラスはなく、今までの寄せ集め。保育の給付金などを寄せ集めた。真新しいものはない。いままで高齢者中心過ぎたと。

子どもDX、電子母子手帳。子どもの成長記録。虐待とかあればすぐわかる。行政と子どもが繋がれる。マイナンバーがあると簡単だが。地方自治に期待すること。自治体のサイズが小さい。2万人から5万人になれば、維持できなくなり、住民サービスが欠落していく。デジタルしかないという発想。

仕事がない。限界集落、高等教育がない。家族全員が出ていってしまう。成績がよかったら出て行ってしまう。地域の子どもたちを大切にしてくれる。企業ぐるみで地域が子どもたちを大切にすることが必要だと？やってるよ

子ども家庭センターをどうするか？産前産後ケア、伊達市のネウボラ。寝屋川のいじめの対応を首長部局がやっている。加害者の出席停止、クラス替え、市役所の監査かが封書でもらう。成績が急速に下がってきたことを察知する？あほか？尼崎もいろんな仕組みを、市区町村がつかないで、把握する？



凧市出生率2.95。岡山。

小・中学校不登校が最も多い。なぜ、自閉症。小さいときの自閉症対策？しなきゃいけない？単に座っておられない。不登校の問題は、もう不問にする。一律の教育のあり方がいいとはいえないのではないか。要するにわからないと。不登校特例校が一律にすると不登校になる。特例校。教員不足でできないんじゃないの？

配置基準を変える。保健室をリラックスルームにする。教育を受けた担当者でないといけな  
いので足りなくなる。予算について、地方負担が増えるのではないか。どれだけ必要か、こ  
ども政策にどれだけ使われているかわからない。単純に倍増とかはいえない。

考察：こども家庭庁創設を建言した参議院議員。遅きに失したとはいえ、その必要性は少子  
化の進展を見ればあきらかである。政権与党が続いていじめの件数はうなぎ上り。このこ  
この原因を究明していない。社会現象と片付けるわけにはいかない。生活に余裕がないのであ  
る。そこに踏み込めないのが山田氏の限界だろう。彼自身が買春で辞任してしまった。

● こどもを本気で応援すれば街は元気になる。泉房穂氏（元明石市市長）

政治は誰がやっても一緒ではない。自治体経営・持続可能な経営。商売人は儲からないとい  
けない。こどもは未来。こどもを応援すると経済が還流する。公共事業の時代とは違う。生  
活支援をすることこどもに重点投資することが経済を回すことになる。それをだれもわから  
なかった。信用しない。書売人、アーケード作ってくれ。あほか。

金が使われへんからあかん。商店街過去最高利益。建設業界・不動産、明石が変わっている  
のではない、公共事業の方が、多い、欧州並みにしただけ。災害の少ない明石。公共事業  
もっとやらんかいと。公共事業で食える時代ではない。ぼったくられる時代ではない、民間  
でかせげよ。明石の人口は5%伸びた。高齢者、たちが悪い。わからへん、わしらもっと欲  
しい。

経済が良くなって、コミュニティバスの高齢者無償化か。市長、待った会があったわ。明石  
はこどもや。マスコミはうそだ。3期12年でやめる気だった。応援はどの政党からもも  
らったことはない。その政党も私を叩いた。自公維新に勝利。党派を超えている。支持政党  
もないし、どこかと敵対してもいない。

好循環・優しい社会・コロナ・最大のポイントは財源論ではない。政策を決めて帳尻あわせ  
をする。決断だけや、駄目やったら責任とる。施策をする。安心・人口。財源・そして施策  
市長になったのは47歳。もう決めている。10歳の時から。思い付きでやった政策などひ  
とつもない。丁寧に。所得制限無し、学費の立て替え、あれもこれもどれもする。選択と集  
中ではなく、こどものためにはあらゆることをやる。ルソーがベースです。こどもはこども  
だ。こども基準だ。おやの持ち物ではない。障がい者の社会参加も阻んでいる。そこを突破  
しないかん。おやによって分断するな。戻りたい街明石になった。すんだらあかん街といわ  
れた。ばかうけ

人口増加率一位。11年連続人口増。兵庫県で唯一人口増の街。借金100億払った。払い  
きった。停滞したら駄目、経済は回す。大学出ていったらでていくやん。それでいいにや、  
30台前後がこどもつれて帰ってくればいい。子育ては金がかかるな。そうや明石や、土地  
が安い。いちがでていって、さんよんごで増えて帰ってくる。数年後に財政責任者が、笑顔  
になった。市長、こども大事ですね。娘が孫までつれて帰ってきたと。報告する。明石だっ

たら2人目3人目いける。安心を提供してくれる。国がやる選挙対策の一時的なサービスではない。すべて払わなくてもいい政策。もうみなさんは前払いで税金で、UFJの年間パスポートをこうしている。もしもの時の安心。おやが病気の時は、明石市が預かる。明石市が、おじさんおばさんの代わりになる。あなたが病気の時でも大丈夫。離婚しても、養育費を立て替え払いする。札束でほつたひっつぱたくような補助金はあかん。駅前が7割も人流が増えている。商売人を笑顔にすること、お金もうけを大事にする。企業も生活者も両方大事や、かたいつぽうだけではだめ。

こども施策。すべての子どもたちを街全体で応援する。里親も3倍になった。職員を増やす。街のみんなが幸せになる。これを選挙公約とした。見守り訪問。施策には金がかかる。国に金がないとはうそや。市民にないだけ。2割だけ。しかし、それが5割も負担になっている。ひどい国や。30年間成長せず、給与も上がってない。国民をいじめる政治だ。市民にお金を使えるようにする。保険料も下げられん。給料も上がらん。それ以外の負担を減らす。国からきたお金はこどもに集中する。タクシー会社やバス会社など、選挙対策としての支援金とするんや。地域商品券1400店舗で使えるようにした。地域商品券で助かった。あなたのタクシー会社の顧客にしてるんや。一回で現金もらって終わるより、循環する貨幣論

人口2000億円動く街1。7%年収600万円の総額の1。7%で8500円の習い事。年間2000億円の1。7%で34億円で5つの無料化。8500円をだすことを決めることが大事。財政に10億使うから、ないから、いいね。と決断する。話し合いして、最後に決めるのはトップや。市民と約束したので、決めるのはトップ。仕事を4つに分ける。必須・望ましい・どちらでも・禁止。してもしなくてもいいのは、全部やめる。いままで長年やってきたこともやめる。これで終わり。国のやってる仕事。代替性・緊急性・コスト。壊れたらおこられるという意識が先立つ。高い方が笑顔になる業者対策。こどもの命をまもっていないのが、今の政治。児相を自治体で、しなきゃいけないこともやっていない日本の子ども。

#### 時代を読むのが得意

夕焼けのあとは晴れる。こども申請者はこどもの名前。こどもの講座にいれる。このお金はあなたのものです。こどもは親の持ち物ではない。こども施策は未来施策。本は勇気である。紙切れではない。移動図書館など。コロナの時に、回っていた。パートの従業員を憂慮する商店主に明石が助けにいった。25日が締め日なので24日にお金を振り込んだ。臨時議会で通してもらった。国が救えなくても明石が救う。全国初だ。5万円。コロナで学費が払えない。市の職員が大学に学費支払いのことで電話しまくった。高校進学奨学金。高校受験の半年前から、三点セット。当初30人だったが今は増えて220人。億の金を使って貧困を助ける。国と地方の関係は主従ではない。法律で変わった。これは法律違反でしょう。一番上は市民や、ど真ん中が市民や。一番遠いところが国や、自治意識。時代が変わった。いつまで同じことやってるんや。自分の街みんかい。明石は面積が小さい。前例主義ではなく、新しい政治。やり方を変える。自分自身の頭を使え。みるべきは市民のかお。わたしは前例になりたくない。

給食費の無料化は、過渡期です。医療費は無料。その他は2りめいこう。中学校から、小学校はまだです。125億円を227億にこども予算を増やした。34億で5つの無料化ができるが、その他の施策もやっているの、その兼ね合いのなかで給食費の無償化をつぎの市長にゆだねた。明石がやっていることは2兆円で国がやってくれるはずのものだ。財源の確保は国家にとって簡単である。虐待防止などの現場のことは地方自治体が行う。自治体としては地域に寄り添え。

ほんのまちの無料化。優しくなるためには人の共感がないといけない。人の痛みがわかる人。自分の痛みは誰もわかってくれない。あなたの気持ちがわかるわけない。あすどうなるかという一般人の気持ちが公務員にはわからない。こころの痛みに対する想像力を育むのが本なのです。弟が障害のあることをわかってくれるのは難しい。他者に対する共感力を本で育てほしい。自分の家はこどもの本だらけにしたい。いも焼酎飲んだらなみだでた。図書館を新しくできた。

高齢者の認知症対策・43ページにあるように。認知症になっても大丈夫な街というコンセプト。気付きのチェックシート。おくってもらったら図書カード進呈。7000円の健診費を至急。ヘルパー10回派遣券とか弁当もってくとか、ヘルパー派遣。買い物。最後はショートステイ。家族の責任と本人責任に追い込まない。本人の自助と公助。共助も応援します。

不登校児童対策・20の時に教育学へ移動。フリースクールの支援をしていた。学校はいつでもいなくてもいい。フリースクールの公設民営。こどもの居場所を作る。学校にできることとする。上から目線。国家の人材とか企業に使いやすい人材ではなく、ひとりひとりの人生を応援する。図書館に自習室を充実させた。こどもたちの居場所をたくさん作った。中高生がバンドできる空間を作った。中学生が音楽するのは無料。不登校はひとつの形で。

となり街を気にしてやってもしょうがない。自治体間競争？いいじゃん。最初の5、6年間はかわりもの市長となったが、その後はみんな一気に変わった。最後は他の街が評価してきた。ないのはやる気だけや。批判したかったら批判して。

議会との関係は？おっさんのための政策。差別と貧困をなんとかしたい。優しい街。これからはこどもだ。こどものいる職員室の広さを3倍にした。市会議員は提言しかできない。権限はない。基本的には議会はチェック。3人の総理であたらないと国政は変わらない。当選して権限を行使して、結果をだす。

考察：今回のセミナー受講の眼玉講義であった。政治家の動機、正義感がどのようにして生まれたのか。地方衰退、人口減少にどのように立ち向かったか。地方経済の在り方をどのように捉えているかを理解することができた。明石市は神戸に近く、必ずしもあらゆる地方都市にこの手法が当てはまるとは言えないが、外せないポイントは、無駄を排して子育て支援への傾斜的投資を行ったことと、それによる貨幣循環が地方経済に発生したということである。政府が行うパラマキがなぜ効果がないか。それは預金されるからである。日本という国の未来を疑ってかかるしかない状況だとそうなるでしょう。一方で、子育て支援という明確な目的がある支援は、必ずその分を消費されるので、地方経済には循環が起きるのです。良い循環は建設業や駅前の商店街にも波及する。そして神戸など近隣自治体から住み良い街として転入が増える。安心感から合計特殊出生率も上がります。魚津市も村椿市長が断行する子育て支援に期待します。

● ヤングでは終わらない、ヤングケアラー

講師：仲田海人氏 作業療法士  
本来大人が担うべきことを担っている若者。  
若者では終わらない。

高校生になっても続くケア。学校の先生やスクールカウンセラーに相談してもたよりにならない。家庭内不和。安心安全の場所がない。不良仲間と付き合う。家出や居場所がない。

グループホームが絶対的に足りない。大学受験・おとなはたよりにならない、工学部に行きたかった。ロボット。やり直しとかのキャリア。ロキソニン 保健室の先生。医療保護入院の姉。保護者として親代わり。社会人になっても、親代わりで働く。病院をやめた。

ALSの父親。大企業も解雇。介護離職しないと20代にしてもはやダブルケア。仕事しながら、こどもなんて考えられない。親の介護をする年齢が低年齢化。実際、今の家庭ってどうなの？共働きで、ともに兄弟の世話をしたり、じいちゃんばあちゃんと同居しないので、線引きする。ひとり親が多い。その役割に責任があるか。友達と遊びたい。兄弟のケア。料理辻亡ければ。兄弟のケア、親のケア。祖父母のケアの順で多い。進路変更がある。

大人が助けてあげれないとずっと続く。介護と仕事の両立は難しい。ケアと健康の関連性。常に緊張状態が続く。こどもの小児逆境体験  
トラウマの構造を理解する。トラウマインフォームドケア (TIC) フラッシュバック  
ここに優しい地域づくりが大切

経済的損失は約9兆円 ケアラー協議会、中学校での訪問・啓発活動  
自分がそうなんではないかと気付きがある。高校での啓発活動。40人に一人が経験あり。ケアラーLINE相談那須塩原メンバーでSNSだけでは駄目。SNSのあとに関係性を作ることが大切。市内の幼稚園のログハウスが居場所として協力。すべて民間で運営し、補助・委託もなし。

協議会があっても条例がまだない。ヤングケアラーコーディネーター。補助も出てきている。那須塩原市もコーディネーター採用には至っていない。  
地域包括でなぜできないのか。地域活動をしやすい居場所を作ってほしい。ヤングケアラーの相談窓口はどうか？相談しにくいんじゃないの？こどもが頼れる人とは？  
役所に相談窓口を作ったらいきますか？はゼロ。家族じゃない第三者が関わらないと、親戚などではもともと解決できない問題だった。

学校はなんの役割を担うべきか。こまっているサインに気づくことはできる。わかってるけど、どうしたらいいかわからない。こどもはこういつてるけど、親はどうなんだと。たらい回し相談窓口は、伴走とか支援はやらない。学校の先生にそこまで期待してはいけないが、つなぐことができればいい。  
学校はどんな役割を担うのか。  
良かれと思ってえらいね。価値観を押し付けない。アセスメントツール  
基準が定まっていない。地域ごとに違う。

当事者が居場所に来る。当事者以外の理解を得るにはどうすればいいか。ビジネスケアラーとは？仕事しつつの人はワーキングケアラー。介護視力など。上司の資質によって、対応が変わっていく。ビジネスケアラーに対する支援策はどのようなものがあるか。

ヤングケアラー対象者に自分がそうだと気づかせることがいいのか？ということ。家事サポートなどケアラーをどうサポートするのか。つなぎ伴走に必要なこと。縦割りのだとそれしかできないということになる。コミュニティソーシャルワーカーが地域にもいるという環境が大切だ。家事サポートは家庭に入ることになるので、拒否にならないようにしなければならない。本人にケアラーと認知させることはどうなのか？直面化として突きつけることになることを理解しておく必要がある。

ヤングケアラーコーディネーターは先生じゃない方がいいのではないかな？学校の先生に調査啓発している段階。学校のなかで完結するリスクがある。本当に子どもに寄り添える人材がいるか。ケアラーがコーディネーターになってもいいんじゃないか。

障害を持っている身内がいたりする場合。どうするのか。うちの家庭ってどうなんだと。自分達で決めることができる。だからなんですか？とか、婚期がおくれてしまうとか。子どもを望まないというケースも多い。

どんな支援があれば良かったと思われるか。家事はケアラーの政策としては最低のこと。うちでみれるのが限界かと。コーディネートする。子どもの権利をまもるためにはどうするのか？伴走支援など。



考察：母が大腿骨折し、そのご腎臓癌が発見されて、在宅介護と在宅治療を1年半ほど体験した。仕事をしながらの介護は叔母が来てくれなかったら、できなかったら。心身的にも母の死後、うつ病にかかり、まだそれを引きずっている。このようなことをまだ年端も行かないヤングといわれる子どもたちが担わざるを得ない状況があるとすれば、公助をしっかりと整備する必要がある。子育て支援や障害者支援の視点からも現状をしっかりと把握して、柔軟な介護保険の適用を考えなければならない。

以上

# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 10月 27日
項 目	① 調査研究費      ② <u>研修費</u> ③ 広報費 ④ 広聴費      ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	2000 円
支出内訳	令和5年度北朝鮮に拉致された日本人早期に 救出する富山県地方議員連盟会費
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

領 収 書

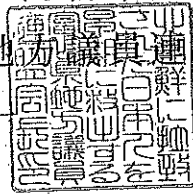
¥2,000-

ただし、令和5年度北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟会費として

令和5年10月27日

越川 隆文 殿



北朝鮮に拉致された日本人を早期に  
救出する富山県地方議員連盟  
会長 鹿熊 正



# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023年 11月 10日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費          ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	会費
金 額	3,000 円
支出内訳	廣應義塾全国議員連盟 総会 研修会
領 収 書	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文



領 収 証

No. \_\_\_\_\_

越川隆文 様

昭和55年11月10日

★ ¥ 3, 0 0 0 -

但 研修会費として

上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

慶應義塾全国議員連盟



会長 壺田 重



# 政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	2023 年 11 月 10 日
項 目	① 調査研究費      ② 研修費      ③ 広報費 ④ 広聴費      ⑤ 要請・陳情活動費      ⑥ 会議費 ⑦ 資料作成費      ⑧ 資料購入費      ⑨ 人件費 ⑩ 事務所費
摘 用	運賃
金 額	19,310 円
支出内訳	政務活動費旅費計算書添付
領 収 書	添付

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

承	会派会長印	経理責任者印
認		

氏 名 越川隆文

政務活動費旅費計算書

会派名 越川隆文



金額 19,310 円

(1人あたり) 円)

用務	慶應義塾全国議員連盟総会研修会				
旅行先	東京都 港五三田				
旅行期間	2023年11月10日 年 月 日(泊1日)				
種別	区間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合計
鉄道賃	自 電鉄免座 駅 至 皇部橋南 泉 駅	800 円	円	円	800 円
	自 皇部橋南 泉 駅 至 東京 駅	18330 円	円	円	18330 円
	自 東武下町 上野 駅 至 南千住 駅	180 円	円	円	180 円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
	自 駅 至 駅	円	円	円	円
車賃	区間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合計
	自 至	円	円	円	円
宿泊料	泊分				円
その他(駐車料金等)	(内訳)				円
備考					
合計	19,310 円				

旅行議員氏名 越川隆文

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

承認印	
会派会長	経理責任者
	

地鉄電車

No 06017

新黒部～魚津往復割引きっぷ

(運賃変更)

運賃 大人 800円  
※特急料金は別

発行日 23年11月10日  
5日間有効

発行駅 稲荷町運転区  
(ご案内) 裏面をご覧ください。

新黒部 ↔ 西魚津・電鉄魚津  
新魚津・経田

(かえり) 下車前途無効

領 収 書

越川隆文 様

Receipt: 2023.11.10 登録番号: T1120001059675


領収年月日: 2023.11.10 登録番号: T1120001059675

領収金額: ¥18,330 (消費税等込み) 税10%

[クレジット扱い]

購入商品: JR乗車券類  
(50390 5枚)  
西日本旅客鉄道株式会社  
黒部宇奈月MK3発行 00392-01

印紙税申告納付につき大淀済  
税務署承認済

 東京メトロ 領収書

ご利用ありがとうございます。  
この領収書は大切に保存してください。

お取引内容: きっぷ ¥180

上記金額を領収いたしました。

---

ご利用日付 2023年11月10日  
時刻 23時31分

伝票番号: 93503  
東京地下鉄株式会社  
地 上野駅 券03発行

2024年3月27日

## 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名越川隆文

議員氏名越川隆文



以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	2023年11月10日～2023年11月10日
調査研究、研修、要請・陳情活動先	慶應義塾全国議員連盟総会・研修会
参加者	越川隆文
目的	慶應義塾大学の講師陣と国会議員を招請して政治行政の在り方を学ぶ。
調査研究、研修、要請・陳情活動内容	考察とともに添付をご参照願います。

慶応\_20231110\_築山2023.11.21 火 午後 2:22 ・ 71分 20秒

はじめまして築山と申します。市民参加の政治理論というタイトルの講演をさせていただきたいと思います。自己紹介いたします。私が今どんな研究をやっているのかとかっていうことをご紹介させていただきますと2020年の4月慶応大学の法学部に着任をいたしました。全日校関西大学の総合情報学部というところにおいてずっと関西に2年ぐらいたんですが、コロナ禍で戻ってまいりました。着任にした時に慶應も完全にシャットダウンしてしまって半年ぐら慶應に入れない状況になっていて着任したはいいものの初めてキャンパスに来たのが2020年の9月ぐらいで全くキャンパスに入れないという状況からスタートしました。元々慶應の法学部政治学科出身でしてご存知かもしれないですけど小林良彰先生っていう昔、選挙報道とかテレビとかでもよく出ていらっやした先生の弟子という形になります。小林先生の後任で研究の専門は政治過程論という研究分野、特に計量政治学という手法を使った研究というのをメインにしております。政治のプロセスを研究する分野になっておりまして、例えば選挙ですとか議会ですとか有権者や皆さんのような政治家の政治心理や政治行動 またそういった政治心理などにはメディアの影響非常に大きいですからそういったメディアの研究など現実精緻のメカニズムみたいなものをデータを使って計量的に分析をして科学的にメカニズムを明らかにするという研究分野研究をしております。こういう現実施設のメカニズムを研究する研究者の場合、研究対象をどこに定めるのかというところ結構研究者の色が変わってくるわけですけど私は修士過程というか大学院生の頃から地方選挙とか地方議会そういった地方政治のデータを使って成長のメカニズムを分析するという研究をしております。

例えば2000年以降のすべての市区町村議会の全ての候補者の選挙データとかデータベースを集めて多分ここにいらっやる皆さんの選挙結果を全部データベースとしてのデータをまさに研究対象としてご提供させていただいている人になります。特に最近は地方選挙の研究とかをやっております、もしなんか面白い逸話とかお話とかあればまた後で色々アドバイスとか裏話とか教えていただけるとありがたいです。

1つは自署式投票制度について最近研究をしています。皆さんもご存知かもしれないんですが日本の選挙っていうのは当然自署式投票という白紙の要旨に候補者の名前や政党の名前を書くという投票のやり方をしてるんですがこの自署式投票制度というのは諸外国で見るととてもユニークな制度で、ほとんどやってる国ないんです。というのは日本みたいに識字率が高い国の場合はそこまで大きく問題にならないんですけど途上国とかの場合には識字率っていうのが必ずしも100パーセントではないのです。候補者の名前は書いても名前文字を書けない有権者が相当数いるわけです。そうすると諸外国では記号式投票名前が最初から刷り込まれている投票用紙丸を付けたりとかがそういう形で投票意思を示すという投票制度を採用しています。国政選挙の場合には全て自署式投票で日本はやっているわけですけど地方選挙の場合には自治体で条例を定めると記号式投票使うこともできるということ 特に組長の選挙市区町村長の選挙については日本に1700自治体あるうちの10パーセント以上の自治体の市区町村長の選挙って実は記号式でやっている。ここにいらっやる方の自治体では記号式投票でやってらっやるところもあるかもしれませんが、そういう違いが私が興味があるのは1700の市区町村長の選挙のデータを集めて記号式でやってるところと自署式でやってるところでも選挙結果にどういう違いがあるのかっていう研究をしています。田中角栄が田中角栄っていう文字を有権者が手で覚えるんだということ、自署式っていうのはやっぱり候補者の名前を実際に書いてもらうという選挙制度ですので馴染みのある名前を書きやすいんじゃないか。それが自民党ですとか現職の議員さん知名度の高い議員さんにとって有利な選挙結果をもたらしてるんじゃないかっていうアネ

クドートというか逸話みたいな話があるんですけど、そういうのが本当なのかどうかというの  
が選挙データとかを使って分析するという、非常に部分的な結果なんですけど、自署式投票  
の選挙の方が現職者の率はちょっとだけ上がるんじゃないかっていうそういうデータの分析と  
かをやっています。それと同様に電子投票についても一部の自治体では行われていて、そういう  
データを使った研究をしています。電子投票についてはやっぱり障害のある投票者の方とかが  
こういった電子投票を非常に好意的に使われているという分析結果とか、そういうアクセシビリ  
ティ高めて意味では電子投票非常にお金かかるので自治体の実務の人は絶対やりたくない  
わけですけど、アクセシビリティ高めてという効果あるんです。そういうことを研究したりし  
て最近議員の成り手不足が地方自治体とかですごく問題になっていて、そういう無投票当選が  
なぜ発生するのかということ、議員報酬との関連から分析するというのも選挙データとかで  
やっています。やっぱり町村の議員さんの場合は議員報酬とかでも平均がまあ20万円未満と10  
数万と違ってことになると、当然やっぱり現役世代は町村議員では家族養うことができないと思  
いますので、やっぱり議員報酬が非常に低い自治体では無投票当選の確率が高くなり、また立候  
補している候補者の属性とかを調べると65歳以上の男性無職の方とかあとは農家の方がやは  
り多い、定年退職された方とか農家の兼業農家の方じゃないとなかなか議員なれないとい  
うこと、そういう歪みとかがあるんじゃないかと、そういうことを研究しています。地方選挙とか地  
方議会とか色々データを使って研究し、本日はお題としていただいたのが住民主権と市民政  
治参加というご専門のという風にご連絡いただいたんですけど、実は必ずしも専門ではありません  
。特に市民参画、私自身は研究対象外分野でして、例えば日本の市民参加の実態とかについて  
詳しいお話をご紹介するとか専門的知見は残念ながら非常に乏しいところです。なのでちょ  
と困ったなという風に思っていたんですけど、今日は市民参加の政治理論ということ、理論的な話を  
色々とお話しようかなという風に考えております。政治学において理論っていうのは大きく2つ  
のことを指します。一般化抽象化された道徳的な原理のことを政治学では理論という風に言  
います。つまり我々が従うべき道徳的な規範とか道徳的なルールってなんなんだろうとどう社会  
とかはあるべきなのかという論を扱う。テーマとして理論を使うということがあります。そ  
ういう理論のことは規範理論という風に言ったり、また一方抽象化一般化された現実の物事の  
因果関係をまとめたものを理論という風に言う場合もあり、そういう理論のこと、実証理論言  
ったりするんですが、要は現実がどうあるべきかという話と現実が実際にどうあるのかという事  
実の規範と実証の両輪、この一般化抽象化して考えていくというのが政治理論の意味内容とい  
うことになります。規範理論とかって言うとなんとなく分りにくいんですけど、要は政治哲学  
の部分、哲学者たちが我々が従うべき政治の原理とか政治のあるべき姿みたいなことを研究し  
ています。それを規範理論という形で呼んだりします。私専門は後者なんですけど、現実が実際にど  
うなってるのかという科学的なメカニズムというのを例えばデータを使ったりとかいろんな資  
料を使ったりして明らかにしていく、故に何かあることがあった時にそれがなぜ望ましいとい  
う風に言うことができるのかとかある物事が、なぜどういう風に発生するのかみたいなことを抽  
象化して考えるというのがこの政治理論という研究分野の研究者のタスクということになり、  
今日お話しするこの市民参加の政治理論というお話はまさにこの規範と実証両方のお話をし  
ていきたいという風に思い、つまり市民参加というのがどんどん市民参加を進めていくべきだ  
つてというような言説があるわけですが、なんで市民が参加することが望ましいのか、市民が参加  
すべきなのかというのを理論立てて体系立てて説明せよと言われると結構難しい。住民が主権  
者、住民が主役だから住民が参加すべきだって直感的には分かるんですけど、なんでそうなの  
が哲学的に考えて、前半部分は大学の授業みたいなつまらない話になってしまうかもしれませんが  
市民参加を肯定的に捉える参加民主主義と住民民主主義という民主主義の理想像みたいな民  
主主義についてご説明をして、この市民参加がなぜ望ましいと言えるのか、市民参加に何が期待

されているのかということをやっと体系立てて整理して皆さんと考えてみたいなのというのが最初の内容になり、この市民参加を推し進めた時に自治体ですとか有権者レベルで何が起こるのかということですね。市民参加導入しようが導入してないから何も自治体にはインパクトがないし有権者は別に学ぶところがないというのであれば もうそれは別に市民参加お金かけてやる必要ないということ議員の皆さん代表者の皆さんに頑張っていただくという話になるわけですが、実はそういった市民参加を推し進めることに結構なポジティブな影響があるんじゃないかということが科学的に世界中の国の事例ですとか自治体の事例のデータから明らかになっています。そういう住民参加とか市民参加あるいは直接民主制の制度ですね、そういったものを導入することの効果科学的なメカニズムについてちょっと色々ご紹介はしていこうかなという風に こういう理論的な話ですの今日の話は非常に抽象的な話がメインになっていてあその自治体でこういう面白い取り組みがあるとかそういう事例の話はあんまりちょっと出てこなくてふわふわした話が多いかもしれませんが当然ここにいらっしゃる皆さんは地方議員の先生方だと思いますのでやはり実務的な話地方自治体の現場の話はもちろんもう皆さんの方が何百倍も詳しいということでちょっと言い訳がましいんですけど研究者に求められるものっていうのはもう少しなんか抽象的な背景だった話、理論的な話とか科学的な話とか国際的にどうなってるのかとそういう話が求められているのかなということをして今日のテーマとさせていただきます。まずはちょっと前半部分なんですけどこの市民参加を支えるような哲学的基礎付けてどうなってるのかということをやめて振り返ってみたい。法学部政治学科卒業された先生方とかの場合にはまさに政治学基礎みたいな基礎科目とか勉強するような内容なのでちょっと先生方に学生にやってみてみたい話をするのは申し訳ないところもあるんですがこんな話あったなということ思い返していただけるとありがたいです。まず現代の民主主義という仕組みというのは、やはり代議制民主主義という仕組みが支配的な地位を占めるに至っています。この代議制民主主義という仕組みは当然市民が直接的に政策決定に関与するというようなあり方ではなくて市民が選挙代表者の先生方を選出するというを通じて代表者の方々に制作決定をやっていただくこと、間接的に自分の意見というのを共同体の決定運営に反映していくという間接的な民主主義の在り方を目指す仕組みということになっています。つまり現代の民主主義っていうのは基本的には議会制の民主主義なわけですね。選挙で議員を選ぶというを通じて民主主義を達成しようとするプロジェクトになっています。よくよく考えてみると自分たちで自分たちのことを決める自者と自者の自動性とかって言ったりしますがそういうことが民主主義の本質だという風に考えるならいちいち代表者の人を一旦噛ませても当然代表者の人っていうのは選挙の際に初めて名前を知ったり顔を知ったりする有権者も多いわけで赤の他人なわけですね。赤の他人に自分の生殺与奪権を握って社会を良くしてもらおうってのはかなりアクロバティックな制度で非常に難しい問題を抱えているわけです。そうならこの代議制民主主義という議員を挟むような民主主義のあり方を実践しなければならないのかということをやめてちょっと考えてみる必要があります。実際、民主主義の源流だという風に歴史的に考えているんですね。古代ギリシャの都市国家の政治とかを思い返してみると古代ギリシャとかではエクレシアっていうのがあるんですけど集会があって広場で市民が一同に会して重要な問題についてみんなで話し合ったり投票したりして市民全員が参加して市民全員が参加する総会でまさに物事を決めるとそういう直接民主制的な仕組みを採用していたわけですね。この議員を選出するという代理性の仕組みを採用しなきゃいけないのかというのは改めて正当化の理由を考える必要があるだろうということになり、この点についてはジェームスアリソンがアメリカ合衆国憲法を起想する際にまさにこういう代議制の仕組みを擁護するような弁論というのをやっています。基本的にやっぱり1番は便宜的な理由が大きいわけですね。そういう10万ぐらいしか住んでないような都市国家の場合には有権者が一同に対して広場で議論



をすることかかっていうことが規模的にあり得るかもしれないわけですが、日本みたいに1億有権者いますと一同に対して1人1人が発言をするなんてことは絶対できないわけです。当然市民の方々の日常生活がお忙しいわけで、そういった時間的な制約とかあるいは地理的な制約といった資源的な問題。そもそも住民有権者が直接政策決定に全員が関わるなんてことはできないわけですね。故にこういった代議制という仕組み代表者を選出して彼らに間接的に政策決定を任せるというやり方をするというのであれば例えばアメリカみたいに広大な領土多数の市民を抱えている国であっても各州で代表者を出してワシントンに集ってワシントンのアメリカ連邦議会の中、議論をすれば一部の代表者だけが集まるのであれば一同に会して議論することができるだろうという代議制というのは便宜的な理由。これに依拠せざるを得ないという側面がある。一方じゃあ最近インターネットなどの情報技術も発展してるから有権者がどっかチャットルームみたいなところに集まって、SNS議論をしたりして直接的に意見を交換したり投票したりするとか、ネット投票することかかってことも容易になってくるということになると、こういった時間的な制約とか地理的な制約は最近ではかなり緩和されてるんじゃないかという話が出てくるわけですが、それでもなおやっぱり直接民主主義には代議制の方がいいということのアリソンは述べています。具体的には、市民がもし直接的に政策決定に関与することが技術的に可能であったとしても、市民というのは当然政策決定の専門家ではないので政策についての専門的知識は持っていません。また政治的な能力を持っている人たちでもないわけです。そうすると市民っていうのは基本的にはやっぱり感情的な判断自分が得をすることか損をすることかあるいは怖い好きとか嫌いとかそういう感情でどうしても政策について投票せざるを得ないということになってしまふとするとそういう市民の感情的判断の集積を国家のなんか対外政策とか他国と戦争するか否かとかそういう決定に直結させるというのは非常に危険だということ。そういった市民の感情をどっかバッファーで何かを噛ませて決定に反映していくというような間接的なやり方を取った方がいいだろうという風に、アリソンは市民が選んだ代表者っていうのは自分たちでこの人いいと思って選んでいる方々なわけですから。市民の平均よりは代表者の方々っていうのはやっぱり有能な方が多いわけですね。スウェーデンとかは国民の情報とかが結構個人情報とか?国民の例えばテストの点数みたいなのが全部全国民のデータが集積されていたりするわけですがスウェーデンの自治体の議員の方っていうのは基本的にプロの議員さんというよりはアマチュアの議員さんが多くて兼業でやってる方がほとんどなんです。そういう地位とか名誉とかがそんなにないような自治体の議員であっても基本的には選挙に当選する人と落選する人そして一般市民の認知的な能力とかを比較すると選挙で当選した人っていうのはやっぱり認知能力高いんですね。ここにいる皆さん多分そうだと思いますが代表者っていうのは基本的には賢明な人が選ばれる傾向にあります。なので市民が選んだ代表者というのは市民よりは賢明なんだからこういうそういう人たちに政策決定任せの方が安全だろう、ということを書いてまた代表政民主主義の場合は広大な用途そういった代表者を探し出すということが出来るわけですからより多くの人材のプールの中からより優秀な人たちを代表者として選ぶことができるということ。1番の相乗効果とし、2番がさらに妥当性が高くなるということ、代議制で基本的には現代の国家っていうのは運営すべきなんだと。

そこから百数十年経っておそらくおっしゃっていたこと通りなんだろうということで、今は多くの民主主義国家というのはこの代理政民主主義と政治家を選出して政治家に任せるという民主主義のあり方国家共同体の運営を行っているところなんです。

このような代議制民主主義を哲学的に擁護し基礎付けるような民主主義観というものも存在します。それがエリート民主主義ないしは競争的民主主義と呼ばれる民主主義になります。このアメリカ民主主義競争的民主主義を基礎付ける哲学的な議論を行ったのがアンソニー・ダウズという経済学者が資本主義社会主義民主主義という本の中まさにそういう民主主義観というのを

構想していて、具体的にはイノベーションっていう創造的破壊という言葉を作った経済学者、基本的にはそういう資本主義のメカニズムとかを研究していた研究者でして経済学者らしいんですけど、そういった有権者が選挙で政治家を選出するという関係性を消費者が市場で生産者から物を買うという消費者生産者の関係のアナロジーとして捉えて、実は選挙を通じて有権者の票を政治家が奪い合うこと、政策的な決定権力に到達するような仕組みとして民主主義を構想すると、市場競争みたいな感じでうまくいくんだということを本の中で述べています。彼は民主主義というのはあくま制度的装置でしかなくて人民の人民による人民のための政治を民主主義という風に考えるっていうのは結局人民のための政治って何なのっていう、与党と野党で合意統括すること絶対ないわけですから、当然野党系の方からすると日本の最近自民党政権はどんどんどんどん民主主義から離れていっているという評価になるかもしれませんし、自民党の方からしてみると選挙で勝ち続けているわけだからそういった有権者からの信託を受けて決定を押し進めていくっていうのはこれはまさに民主主義なんだっていうことですね。民主主義に対して異なる評価が出てしまい、そこから合意に到達することは絶対ないわけですね。そういう人民のための政治イコール民主主義みたいに考えるのではなくて、民主主義ってのは単なる手続きでしかないんだ、制度装置でしかないんだという風に割り切りましょうということを言っています。具体的には政治家が政策決定権力を得るために有権者の投票を獲得するそういう競争的な競争を勝ち抜かないと権力を得ることができないような仕組みのことを民主主義だという風に考えましょうというドライなりアリスティックなものの見方をしています。シミュレーターの考えとしては基本的には有権者っていうのは、そういう理性的な判断とかができるような能力を基本的には持っていない単なる大衆でしかなくてそういった大多数の有権者っていうのは例えば共同体がどうあるべきかとか国家の育成どうあるべきかみたいなことを考えたりする能力は基本的にはなくて自分が損か得か好きか嫌いかそういうことしか基本的には判断することができないような市場における消費者みたいなものなんだという風に考えるんですね。ところが民主主義っていう仕組みはそういった消費者から票を集めない政治家が政策決定権を握ることができないという仕組みとして構想してあるわけですから、生産者が顧客を獲得する競争を行うごとくつまり顧客を獲得するために顧客の満足度が高くなるような商品開発を行ったり新しいイノベーションを生み出して、社会の利便性を高めていくという市場競争が発生するかのごとく、政治家は票を獲得しないと政治家の地位にいられないという仕組みを作っておくと。有権者の票、消費者の票をたくさん獲得しないと政治家の地位にとどまることできないの有権者の多数派の利益をちゃんと擁護して有権者がより良い社会で生きていけるように政策決定を行うようになるだろうという風にエリート間の競争による有権者の多面的な利益の実現というのが選挙を通じて実現するようになるんだっていうことですね。そういう市場競争なのだ。人事選挙競争を考えるという民主主義感を提示しています。故にシュンペーターにとっては有権者っていうのは政治家を選挙で選ぶということが最大の仕事でありそれでいいんだっていうこと、エリートは有権者の票を獲得するために競争をする中より良い政策をイノベーションをまさに作っていただくということですね。

そういうことが起こってこれがまあ有権者の利益をうまく擁護することになるんだという風に考えて、このシュンペーターの民主主義理解からすると民主主義っていうのは競争的な選挙のことを民主主義という風に指すわけなので、選挙がちゃんと競争的に行われてるのであればそれでオッケーっていうそういう民主主義になります。市民というのは基本的には消費者的な存在でしかないの、市民が直接的に政策決定に関与するなんていうことについては基本的には否定的な立場を取る。このような民主主義イコール選挙っていう言説は結構一地方の首長の方とかの間でも人気のある議論というか橋下さんたちもやっぱり民主主義っていうのは選挙が一番重要なんだっていうことをおっしゃっていたと思うんですけど政治家の方にも人気のあるも

のの見方だという風に思われます。ところがこの民主主義ってそもそもなんだっけっていうことと立ち返ってみると、民主主義を選挙と同一視していいのかということにやっぱり疑問が湧いてくるわけです。民主主義デモクラシーという英語はこれ語源がギリシャ語に由来をしています。ギリシャ語のデーモスはこれをギリシャとの民衆のという風に言います。またプラティアはこれをギリシャ語では支配という風に言うんですが、デーモスプラティア民衆が共同体を支配することをデーモスプラティアデモクラティア、それが英語デモクラシーという言葉の語源になってる。このような民主主義というものの本質語源に立ち返ってみると民衆が自分たちでやっぱりし共同体を統治するということが民主主義の本質だとも考えられるわけです。そうすると、民衆支配者である民衆というのは選挙で代表者を選ぶ役割しか与えられてないんだ。市民の役割は選挙の業務にしかないんだという風に役割を限定するってこれは民主主義というプロジェクトの矮小化に他ならないわけです。

ということやっぱり民主主義の根源本質に立ち返るべきなんじゃないか。そういう形民主主義のあるべき姿を構想しようという哲学的な潮流が生まれました。これがつまり根源的英語ラディカルなラディカルデモクラシーという哲学的な立場が存在しており民主主義の根源に立ち返って民主主義のあるべき姿色々形容詞つきの民主主義の姿を踏襲するというのが哲学者の間で、20世紀後半行われました。その中で出てきた民主主義観というのが、ちょっと前向き長くなってしまっているんですがこの参加民主主義とか住民民主主義って名前は聞いたことある方が多いと思うんですが、こういった民主主義観っていうのがまさにその民主主義の根源に立ち返って構想された民主主義だということになり、他にもいろんな民主主義観があるんですけど特に市民参加との関係で重要なのはこの参加民主主義と住民民主主義という2つのプロジェクトということになります。まず参加民主主義という民主主義観は市民は選挙の政治家を選ぶという役割だけではなくもっと広範な領域に直接的に参加をすべきなんだという市民の広範かつ直接的な参加というのが民主主義にとって重要だということ。そういったものを重要視する民主主義観ということになります。代表的な論者はマクファーソンとかキャロルペイトマンなどの人物が有名な論者ということになり写真スライドにあるのはペイトマンの最近の写真ですが女性の研究者の方、確かに参加民主主義者、市民がどんどん参加することが民主主義にとっては望ましいっていう立場の方も、市民っていうのは基本的には政治について無関心になりやすい。そういった政治的無関心のことをアパシーという風に言うんですがそういったアパシーの状況に陥りやすいということは認めています。アンソニーダウズが合理的無知ということを言ってるんですが、基本的に一政治的な決定っていうのは集合行為、みんなで物事を決めるそういう性質があります。例えば選挙では20万人の有権者で1人の議員を決めたりするわけですね。つまり自分が判断した判断というのが決定と直結しているわけではなくて、みんなの判断の積み重ねで決定が行われるというのが政治的な決定集合的決定の特徴ということになります。そうすると、勉強をして政治について詳しくなって政治とか政策について正しい判断ができるようになったとしてもそれが決定に必ずしも反映されるわけではないむしろ反映されるわけではない、見返りはないわけですね。もし自分が政治についてめちゃくちゃ詳しくて立候補してる候補者の中に、まさに正解というか一番いい人が誰なのかってことが分かってたとしても残りの19万9999人の有権者が誤った判断をしていて全く勉強してなくてよくわかってなくて、まあなんか見た目のいい人に投票してしまうとかそういうことをやってしまうと結局自分の1票っていうのは20万分の1の自分でしかない誤った判断になってしまうわけですね。当然現代の共同体みたいな中、集合的決定をやると思うと自分の一票が選挙結果とか政策決定を左右するなんていうのはあり得ない。そうするとコストをかけて勉強して政治とか政策について詳しくなっても無駄なわけですね。常に学習コストを学習の見返りが下回ってしまうか上回ってしまうという状況になります。なので、合理的な個人っていうの合理的な市民というの

は政治については無知であるもう勉強しないっていうのが一番合理的という状況に基本的に置かれてしまうということを述べています。これはなんか一面では正しいというか市民は基本的には政治的な無関心に陥りやすい傾向があるというのは参加民主主義者自体の認めているところ  
です。エリート民主主義のシュンペーター流の民主主義理解と異なる部分はどこかという  
市民は政治的に無関心、基本的には政治についての知識を持ってないから市民の役割を限定し  
て選挙で代表者を選ぶメリットを選ぶことだけに役割を限定しましょうというのがエリート民  
主主義者の考え方なんですが、参加型民主主義学者はそれは本末転倒で悪循環だと、そういう  
発想なわけですね。市民が政治的な無関心に陥るからと言って、選挙数年に1回代表者を選ぶ時  
だけ市民が政策決定権に関わることができるっていうことにしてしまうと当然市民が政治的な  
問題に関わる機会、公共的な問題を考える機会ってのはますますなくなってしまふわけ  
です。当然市民は選挙で代表者を選ぶだけなのエリートの側もわざわざコストをかけて市民を政治的  
に教育して公共的な問題を市民と一緒に考える、より良い判断を市民にしてもらおうみたいな  
ことを考える動機付けってのは、基本的になくなってしまふ。選挙で投票してもらえればい  
ってそういう発想になってしまふわけですね。そうするとますます市民は元々政治的な無関心  
に陥りやすいのに役割がどんどん限定されていくので、ますます政治的な無関心が助  
長されて政治ってのは複雑、何やってるかよくわかんないからまあもうエリートの人に任せて  
しまふというお任せ民主主義になってしまうということですね。なので、市民が政治的に無関  
心だから役割を限定するのではなくて市民は政治的に無関心だからこそ、広範な政治参加の機  
会を与えて彼らに政治とか政策について学んでもらうと良き市民になってもらうということ  
を目指すべきだというのが参加民主主義者とエリート民主主義者の意見が分かれるところ、  
なので市民の広範な政治参加がある効果が良いと望ましいとそういう立場になりまたこのよ  
うな参加を重視する民主主義機関に対して民主主義イコール選挙というものの見方に対して異なる批判  
というのがあります。ここ数十年注目を集めているのが熟議民主主義という民主主義間になり  
ます。この熟議民主主義は民主主義を選挙という風に考えるシュンペーター流の競争的民主  
主義のことを利益集計型の民主主義モデルだという風に手厳しく批判をしています。この利益集  
計型の民主主義モデルってのはどんなモデルかという選挙で代表者を選出した選ばれた代  
表者ってのは議会内また多数決を行うということこの選挙議会を中心とした代議制民主主義  
ってのは基本的に選挙議会多数決で物事を決めるってそういう民主主義の仕組みなわけ  
ですね。すると結局はこれは有権者の票の集計結果この票というのは自分の利益に叶うよ  
うな候補者は誰なのかとか議会内自分の利益に叶う政策って何なのか法案ってなんなの  
かという自分自身の利害の集計結果、単なるカウントをして、カウントの数が多いものを  
政策決定に結びつけるとそういう利益の集計で物事を決めるような民主主義のやり方  
でしかないわけですね。こういう利益集計型のモデルの問題点っていうのは基本的には  
自己利益の集計結果で政策決定を行う仕組みなので、数が制するような利益、多く  
の人の利益に叶うような政策決定が望ましいっていう規範的なインプリケーションヘ  
メッセージを持ってしまいます。自分が抱えてる自己利益とか自分の利害関心とい  
うのを本当に押し通してそれを政策決定に反映することが日本という国にとっていい  
のか自分たちが住んでる自治体にとっていいのかっていう自分の考えをです。内  
省するような機会あるいはそういう動機付けを基本的には持たないわけですね。選  
挙を通じた民主主義という自己利益というのを他者に向けて正当化して自分の利益  
というのが共同体にとっても重要なんだということを説得したり正当化するよ  
うな機会というのを認めないそういう仕組みということになります。そうすると  
結局は多数派の利益の積み重ね、数は正義で多数派の利害というのが政策決定に  
そのまま反映されてしまふ。結局多数派多数決を取れないような少数派の利益とい  
うのは一生政策決定に反映されないこと、多数派の専制を導いてしまふとい  
うようなことが批判的に考えられます。そこで、熟議民主主義者が考える新しい民主主義のモデ

ルというのが熟議型のモデルということになります。この熟議型のモデルでは基本的には多数決で物事を決めるというのではなくて 構成員の間の熟議この熟議ってというのはちょっと政治的な用語というか政治学的な用語なんです、ちゃんと熟慮をして討議をして話し合いをして、そしてメンバー間で合意形成を行いながら政策決定を行うべきだとそういう 政策決定のプロセスを重視するモデルということになります。プロセスの中では 共同体どうあるべきか政策決定どうあるべきかということをお互いの意見を出し合ってお互いの意見ってというのは当然異なるわけですが、理解は異なるわけですが、なぜ自分を 利害が共同体にとって重要なのかということをお互いに向けて説得をする、つまり理由付けを行うということをお互いの意見の中で求められることになる。この熟議型のモデルでは数の力で物事を決めるのではなくて理由の力。確かにあなたが言うてことは一理あると。おっしゃる通りだ。多くの共同体のメンバーが理にかなっていると思えるような理由付けによって政策決定を行っている。そういうことが現実に可能かどうかは別として理想はそだ。政治哲学ってのは現実がどうなってるかじゃなくて理想が何かを成立する学問なので、理想は熟議というのが政策決定において不可欠になると。自分の考えってものを自分はそれが得だからと自分はそれが利益になるからみたいな自分勝手な理由だけやっばり他者を説得することってできないですし、そういう自己利益の話ばかり議会にしてると入ってなんか一大局的な見地がないねとか共同体のこと何も考えてないねやっばり恥ずかしい思いをしてそういう自己利益ばかり議会で弁を打つてというのは、議員の間でもちょっと見下げられるとかそういう状況になってしまうということになるとそういう自分の考えを集団に対して正当化するプロセスの中いるんな立場の人の利害とか意見とか事実認識が、政策決定のプロセスの中に出てきて多くの人々がそれは理に叶っているという理由付けが、合意に到達した時に決定というのが行われるという風に考えておくのであればいろんな人の利害の関心立場そういうものが、反映されたら普遍的って言ったりするんですけどそういう普遍性のある決定に近づいていくことができるだろう、当然そういう決定というのは共同体のメンバーにとっても決定の正当性を強く感じるような決定に到達することができる、ということが主張されています。ということ長々とお話をしてしまいましたがこの参加民主主義とか自民主主義という、民主主義会の中では基本的には市民の参加というのが結構重視されていて、中でも市民が参加することで良き市民として成長するというような教育的な効果ですとか 参加して市民が直接参加してまたそういった熟議によって理由付けによって、政策決定を行っていくと。市民間のコミュニケーションによって政策決定を行っていくということを行えば、当然共同体のメンバーにとっては民主的な政策決定ってというのは自分と無関係なところ、議員の特殊な利益によって政策決定が行われてるわけではなくて、自分たちのために政策決定が行われてるという風に公正なものだという風に認識してもらえらるそういう手続き的構成にもポジティブな影響があると、そういうことが哲学的には市民参加の道徳的な基礎として定義されているところなんです。当然これ熟議民主主義とかで話をするとこんなことは現実に可能なのかということがかなり現実から遊離した話のように思われるところなんです。そこでこういった市民参加というのは実態としてどういう効果があるのかということについて 当然我々科学者はデータを使ったり色々な実験をしたりしてそういった市民参加の意義効果というのを研究したりしています。ここからはバトンタッチをして哲学者ではなくて科学者の仕事なわけで、こういった市民参加の効果ということについて、実は諸外国海外の研究とかではこういった市民参加、特に直接民主主義的な制度を導入すると何が起こるのかということについているんな実証研究の知見というのが存在しています。今日は中でも、代表的な実証研究の知見というのを簡単にちょっとご紹介させていただきます。ちょっと注意が必要なんですけど今日ご紹介する話ってのはメタアナリシスと言ってたくさんの研究結果を集めて全体としてこんなことが言えますってというような話ではなくてちょっとピックアップをしていくつかの研究についてご

紹介をするというものなので、合意が取れている話だけではないというのはちょっと注意を促しておきたいと思います。また因果関係として最近、因果推論と言って因果関係をちゃんと科学的にエビデンスとして取り出すというエビデンスベースのポリシメイキングというのはすごく考え方としては重要視されるようになってきているわけですが、エビデンスの信頼性については今日ご紹介する話ってというのは私がめちゃくちゃ信頼できると思ってる研究結果もあればちょっとこれは怪しいと思ってる研究結果もありますので、そこは割り引いて考えていただくとありがたいかなという風に思います。市民参加の制度というのはいろんな制度があるわけですが、今日はちょっと代表的に住民投票とあと日本でも最近よく取り上げられる試みである参加型予算とこの2つの制度についてちょっとご紹介をしようかなという風に思います。まずやっぱり選挙以外の代表者は選挙以外市民が直接参加する制度というやっぱりイメージが1番つきやすいのは住民投票なわけですね。議案に対して住民が直接的に投票をして政策決定に結びつけていく。そういう直接民主制的な仕組み。人員を介在せずに市民が政策決定に直結できる仕組みというのが諸外国でも広く利用されています。この参加型予算というのは予算編成について市民の参加を政策形成予算形成過程インクルージョンするという仕組みになっていて、昨年杉並区長に当選された岸本区長などはミュージニシパリズムという欧米の考え方を取り入れて特にこの参加型予算など市民参加を推し進めるような制度というのを色々導入されていて、また、杉並区朝鮮の後ぐらいからまたこの参加型予算についてもインターネットとかニュースなどで注目が集まっているところです。まずそういう住民投票を含めた直接民主制度を導入すると何が起るのかということについてエビデンスをちょっとお話をしたい。まずこの直接民主制度の効果を研究する研究群のエビデンスの多くってというのは、これはスイスの事例が多いんですね。スイスというのはそういった直接民主制度の伝統が非常に根強く残っているということ諸外国でも日本でも非常に有名です。連邦制の国26の州から構成された連邦制国家になっております。スイスではこの州のことをカウンティという風に言うんですがこのカウンティには様々なイニシアティブとかレファレンダムの制度というのが導入されていて州の憲法や州の法律案というのを住民が発議することが認められています。また議会が可決した法律に対してレファレンダムそれを拒否するかどうかの住民投票を行うことが可能になっていたりし、また週の予算に対しても一部のパーセントまではレファレンダムが定期可能この予算はいいからやめるとか、この予算はつけるとかそういうことを住民が住民投票決めることができるということ、しかもこういった住民投票が非常に広範に利用されているという特徴を持っています。また一部の州では最近どんどん廃止されていっているんですが、市民総会と言ってタウンミーティングのような場所に市民が一同に対して市民総会の場で政策決定を行うという仕組みを取っていたというのもありました。研究者が注目するのは基本的には資格対象がどうなってるかという分散に注目するんですね。具体的には州によって実はこの直接民主制度のハードルの高さが違ったりするんですね。必要な署名の人数というのがある週ではめちゃくちゃ少ない人数でもイニシアティブができるのにある州では非常に多くの署名人数が必要なので実質的にイニシアティブが難しい。そういう習慣の違い、そういった障壁の違いを利用してより直接民主制的な制度を導入している州とかそういう都市に住んでいる住民ほど何が州都市に起きるのかということ进行分析してこの直接民主制度の効果を分析するということを経済学者や政治学者がやっています。このスイスの事例を使った研究いっぱいあるんですが大体合意が取れる部分としては、こういう直接民主制の制度が発達している州、基本的には衆の歳出これが無駄遣いが減るっていう州歳出の放漫化が抑制されるということが言われています。つまり代議制民主主義議会の議員さんを選出して政策決定をやるよりも、住民が直接的に予算に口出しができるような仕組みを取っている方がこれはちょっとイメージと逆かもしれないですけど予算がスリム化するということがあるわけですね。まあ市民は基本的には予算が無駄遣いさ

れてどんどん膨れ上がっていきこれは自分たちの税負担が増えることとかあるいは一社員まで赤字が増えることでいつか自分に返ってくる、そういう歳出の法案化を防ぐ方向に直接民主制の働きやすいという風に使われています。これは当然、議員の皆さんもちょっとイメージあるかもしれませんが議員の皆さんの場合やっぱり選挙を突破しないと議員の立場で見られ続けられないということどうしても自分たちの支持者とか自分たちを支持してくれてる地域に何か利益を持って帰らないとなという風に思ってしまうわけですね。そうすると選挙を通じて利益を誘導するというプロセスがない分だけ予算が少なくなり、選挙コストが基本的には民主主義には民主主義の赤字という形でかかっているという理解になります。またそうやって予算の無駄遣いが減ると脱税がそういう州とかでは減るようです。つまり自分の税金というのがなんか政治家に無駄に使われてるみたいな認識を市民が持ったりするとそういった高い税金払ってもそれ全部無駄遣いされちゃうという風に思ってしまうと脱税をしやすくなるというそういうことがあるということになります。直接民主制的な制度を導入すると自分たちでこれ決めてるような自分たちで予算を使っているよなという認識を高めるためにそういう税から逃れるということをやらなくなるわけですね。結果として自分たちの意見というのが政策決定に直接的により反映されるようになるので、こういう直接民主制の制度が発達した州の住民というのは他の州に生活満足度いわゆる幸福度これが高いということについても、合意の取れた知見というのがあります。これはいろんな研究者が研究して大体こういう結果になるということ合意が取れているところ。スイスの事例が多いんですが、アメリカの事例というのはいくつかあります。アメリカのこういった住民投票やあるいは住民の発議議案を提出して住民投票議案を決めるということが結構広範に行われています。過去にそういうイニシアティブをたくさん実施している州と実質的にそういうイニシアティブを認めてない州もあるんですがそういった州ごとのイニシアティブの実施件数の違いに注目して分散に注目してアメリカの住民の状況の比較というのを行ってみると、ここちょっと専門用語が出てくるんですがなるべく有効性感覚の外的有効性感覚という2つの政治に対する有効性を感じる市民の認識というのがありまして、これ政治学の用語なんです。つまり民主主義というプロセスの中自分が確かに政策決定に影響力を行使できてるな、この民主主義という仕組みうまく有効に機能しているな、という感覚を市民が持っているかどうか。そういう感覚を測った尺度ということになり、例えばアンケート調査の際、有権者にどんなこと聞くかという政府は複雑自分のような一般市民にはよくわからないこのセトメントに同意しますかとかというところから自分が政治的な問題をよく理解できているかという政治的な能力に対する信念を測った。これがまさに自分にそういう民主主義をコントロールする能力があるかどうかという具体的な有効性の感覚の内的有効性感覚という風に言います。

一方自分が選挙のこととかよくわかっていてうまく市民として振る舞えていたとしても選挙で選んだ政治家の人が自分たちのこと考えてくれてないという風に思うと民主主義という仕組みがうまく機能しないということになってしまうわけ。公職者政治家の人たちというのは市民のことを気にかけているかとか市民の声に回答しているかそういうことを聞いて外的な外部の要因として民主主義が機能しているかの有効性の感覚を測るということを政治学ではやっています。するとこういう直接民主制度を導入した実施件数が多いアメリカの州に住んでいる住民というのは、こういった内的構成感覚や外的構成感覚が高い傾向にあるということが分かりました。つまり政府がどういうことやってるかよく自分では分かっているし政治家は市民のことちゃんと考えてくれているという風に思いやすいですね。またアメリカの州でもやはりイニシアティブの実施件数が多い。直接民主制的な制度を導入している州では生活費が高いということが分かっている。当然気になるのはやっぱり日本ではどうなのかということ。日本でも部分的にそういった研究の事例というのが存在します。実はこのキムさんという方の研究は

韓国からの留学生の方で、私の姉弟子と同じ研究会で勉強してた方の研究なんですけど、日本でも住民投票というのが、かなり実施されています。ただし日本の住民投票の実施例の大部分はほとんどというのは、実はこれ平成の大合併の時に行われたものになります。この平成の大合併時に合併を認めるかどうかとか協議会作るかどうかとか、投票をやったわけですがこの平成の大合併時にそういう住民投票を実施した自治体に住んでいたかどうかというのをアンケート調査識別をしてですね、大学ページの住民投票をやる前とやった後の同一人物の有効性感覚の違いというのを比較してみると結構驚くことなんですけど、平成の大合併みたいなテーマの住民投票であっても住民投票1回やって珍しいと思うところといった内的有効性があるのです。政府は複雑で自分のような市民にはよく分からないと思わなくなるということ、有効性感覚が高まるというのが日本でも傾向として見られるということ、やっぱり政治に直接的に参加する機会が与えられると政治ってどんなものなのかということについて理解を深めることができ自分の政治的な能力に対する自信を深めることができるということ、政治参加については教育効果を裏付けるような研究というのが非常に多いところなんです。またこの直接民主制度の効果についてちょっと興味深い話をご紹介しますと、こういった直接民主制度というのが、なぜ市民の能力とか市民の参加に影響するのかというメカニズムを考えて大きく2つの効果という風に述べる研究所もあります。1つ目はシグナリング効果という効果がありまして、直接民主制度政策に対して直接的に投票ができると、そういう仕組みがある場合には政策決定っていうのが議員や代表者に独占されてるわけではなくて市民が直接的に決定に関与することができる。すなわち、政治というのは市民に開かれているんだと。そういうシグナルなどを有権者に対して発信し有権者がそういったシグナルなどを受け取るということになり、すると実は一部の市民特定の市民が特に恩恵を強く受ける支部なるメッセージに強く反応するということが分かっています。具体的にはこれは女性ですとか人種的なマイノリティそういった方々っていうのはやっぱり議会で代表されにくい、議員を選出しにくい社会集団なわけですから、議会という代議制民主主義の仕組みの中ではやっぱり男性の議員が多かったりとか人種的なマジョリティーの議員で多く占められるということ、そういった議会の人に自分たちの利益を代表してもらえないという風に考えている政治的なマイノリティの人たちが特にこういう直接的に自分たちで政策決定に直接関与できる仕組みってめちゃくちゃいいじゃんということこういった直接民主制度を通じて自分の政策に対する影響力とかを実感しやすい教育効果が働きやすいということがわかった。またもう1つポジティブな効果として言えば情動的な効果があるだろうということ代議制民主主義の場合はやっぱり議会に代表者を送り込んで、代表者の人たちが議会政策決定を行って実際に予算とか法律ができるということ、ある政策決定が行われたプロセス議会のメンバーは当然自分たちが決めていること権限が各議論した長い議論を踏まえて決定をやってるってことはわかってるわけですけど市民から見るとやっぱりそういった決定が行われたプロセスとかどうなってるのかよくわかんないということになってしまいうわけですね。

ところがそういう住民投票とかある政策について賛成か反対かということを住民に問うということをするとか州の住民投票に対して激しい選挙キャンペーンが行われまたそういった選挙キャンペーンをメディアが報道をするということ政策争点についてはやっぱりとても政治的な情報が社会に出回りやすいわけですね。これは最近では大阪都構想と住民投票の事例とかを考えるときにああいう住民投票にかけるということになると、政策については非常に多くの情報を市民が獲得することができるということに、そういった効果を通じて基本的には直接民主制的な制度というのが市民にポジティブな効果を与えるということが分かっています。ただ先ほどシグナリング効果のところでお話したように、やはりこの直接民主制度の恩恵を受ける人って誰なのかってことを考えると通常の代議制の仕組みでは自分たちの利益を代表してもらえない人たちですね。故に実は直接民主制度導入すると女性の投票率が上がるとかですね女性の好み



やすい政策が実行されやすくなるとかですね、そういう女性の代表が高まるということが科学的に分かってきた。よくよく考えてみるとキャロルベイトマンを含めて参加民主主義者ってフェミニストマンフェミニズムの理論家の人たちが、まさに社会運動政治運動としてこういった参加民主主義という仕組みを導入しようとしていたということはその分析結果と無関係な話ではないということになります。現代でもこういう参加民主主義市民参加に非常に積極的なのは女性の首長が多いというのは偶然ではある。では、市民参加めっちゃくちゃいいということなんですけどじゃあ市民参加どんどん推し進めることが良いのかっていうところって直接民主制度については当然いろんな限界があるということは皆さんも認識されているところだろうという風に思い、まず住民にいちいち参加してもらって政策決定をやるということには多大な民主的なコストがかかります。大阪市で住民投票をやりようと思ったら8億円一ヶ月かかるっていうことになるとこれは非常に大きなコストがかかるわけですね。ただではないということになる。じゃあ諸外国ではこのレファレンダムとかイニシアティブはどうやって大規模に運営されているのかとこれは区長とか議会の選挙と同時選挙をひとまとめに執行するということが多いです。例えばアメリカの場合は州選挙というのが数年に1回行われるんですが州選挙の何か月か前までにイニシアティブを実行すると次の週選挙に議案をかけることができるってそういう仕組みになっています。実際アメリカの州選挙とかではこれここに実際にかける議案を並べてありますがプレジデントとかセネターとか一州の議員とか裁判官とかそういうのはいろんな人たちが選挙で選ぶ中に下の方にステップのプロポジションという形で住民投票の議案が州レベルとか市レベルのものがかかっているということ。ただ当然こういう風にひとまとめにやって議案を一気にかけたりすると1回の選挙なんと20個とか30個とかの選択を有権者が投票用紙Xをつけたり○をつけたりしなきゃいけないって結構アメリカの国民は非常に大変な選挙をやらされているという状況になっていて、コストを削減しようと思ってコスト重視でやろうとすると何が起きるかということ選択疲労ということが起きることが経済学の研究で分かっています。具体的には投票用紙の後ろ側に配置された住民投票の議案ほど棄権をしたり現状維持的な投票というのが増えるということがわかっています。これは何を意味してるかって言うと最初の方、大統領誰にするかとか州議会の議員誰にするとかさ最初の方の住民投票の議案とかは頑張ってるんとか頭使ってるんとか自分にとって望ましいのはどっちだろうって考えるんですけど疲れてくるんですね。結局いろんなことを言われると選択疲労で疲れてきちゃうので頭で勝負しちゃって後ろの方はもう現状維持もう1回次でやってくださいっていうことですね。適当に投票してしまうということが知られています。

なので、市の住民投票ならまだしも複数の問題を住民にやらせるといった住民の能力、1回の選挙の認知資源を超えた状況になってしまうだろうということに非常に注意が必要です。イニシアティブにせよレバレットにせよ住民投票から結局これを集計するということは利益集計型のモデルに過ぎないということが自署民主主義者からは批判されることです。市民が投票するだけではなくてちゃんと政策決定のプロセスにインクルージョンが公設されて議論をして市民の意見をちゃんと政策決定に反映すると、そういう参加制度を導入すべきだということが自民主資金のプロジェクトの中で提案されています。特に市民というのを無作為に抽出してランダムに抽出して会議体を作って会議体で話し合ったことを政策決定に反映するといういろんな仕組みというのが提案されていて、討論型の世論調査とかドイツのプランニングセールと計画細胞Planungszelleと言ったり、まちづくりの際、市民無作為抽出された市民でまちづくり会議を作ったりする事例だという風に理解をしてください。そういう無作為に抽出された市民で民主主義を行うくじ引き型民主主義という新しい民主主義の理想像とかが提案されていたりしてまあ最近すごく注目を集めていたりします。このような市民による会議の1つとして参加型予算と呼ばれるような仕組みが提案されています。これは予算編成の一部というのを市民に開放し

て市民に予算の一部を決めてもらう。例えば予算の1パーセントは市民枠にして1パーセントの使い道は市民が決めるとそういう制度ということになり、基本的には市民に予算の用途を提案させてそれを市民に投票で最終的には決定してもらうとそういう組み合わせで予算の用途を決定する仕組みになっています。1989年にブラジルのポルトアレグレ市という市でスタートし、ブラジルではかなり広く利用されている制度ということになります。日本でも三重県東京都、あとは三重の名張とか、あとは東京の杉並区などでこの参加型予算の試みというのが実際に行われています。

この参加型予算効果どんなものがあるかというブラジルの事例では1989年から2004年これちょっと14年ですが2004年までに行われた351の参加型予算を分析したところ参加型予算を実施した自治体では実施しなかった自治体に比べて保険衛生分野への支出割合というのが23パーセント増加した。これは参加型予算でかかっている予算を比率で見ると、参加型予算で住民が決めていい予算の2割から3割が衛生分野ヘルスケアの分野に割り振られるということが傾向として出てきました。結果として衛生分野に議会が決めていたよりも予算を振るようになったような自治体ではなんと乳幼児死亡率というのが5パーセントから10パーセントも減少したということ、市民の健康状態を大きく改善することに貢献したとそういう研究の事例があります。ただこれも残念ながらブラジルで広まった制度なのでブラジルの事例の研究が非常に多いです。ブラジルは1980年代まだ独裁体制からの脱したばかりということ市民の保険衛生に非常に大きな問題があり住民が保険衛生をなんとか改善して綺麗な街を作ってほしいと健康な生活を送りたいという期待が大きかったために参加型予算ではそういう政策の予算が振られたということなんです。日本でやった時に保険制度に予算が振られるかということそれは参加してる住民が何を考えるかによるということに依存するので、一般化結構難しいところかなというところがあります。日本でも色々こういった取り組みがやられてるわけです。最近の事例で分かったことは基本的には投票率が極めて低くなってしまおうということ。例えば東京は人口1400万人この参加型予算というのをやってるんですが参加型予算に投票してくれた人は1人3票を与えられてるのに4万票のみということこれは0.3パーセントの投票率ということ。0.3パーセントの有権者が決めた予算っていうのはどれぐらい正当性があるんだろうということ。この参加をどう促すのかということが課題になっているということがわかる。参加制度もポジティブなことがいっぱいあるんですけど実際の運営は非常に難しいということが分かっています。最後にこの市民参加っていうのは結構ポジティブな効果があるので、機会があればぜひ取り入れていただきたいなという風に思うわけですがこれがいつ採用されるのかということを考えてこの市民参加を広げていくということは非常に難しいということがわかります。当然こういった直接民主制度を導入するか否かを決めるのは現状の代議制度のアクター、組長や議員の皆さんということになります。故にそういった政治家の方々の政治的な目的や戦略とこの市民参加制度を導入するか否かっていうのが密接に結びついている。つまり政治的な目的で導入されることが多い、というのが現状だと思います。例えばポルトアレグレの参加型予算っていうのはこれはブラジルの労働者党の市長が大量に増えたタイミングそういった労働者党の市長が市議会を回避する形市民の意見というのを政策決定に反映直接的に反映するという政治的な目的で参加型予算を始めたという経緯になってつまりこれは左派政党が保守的な議会を回避して政策決定をする方面でこういう市民参加を導入すること非常に多いです。また男性優位の議会に対して女性の区長が直接的に女性の意見とか市民の意見を聞くということで市民参加制度を導入してそれに頼るといこともしばしば見られる。改革派の主張というのが議会で強く対立をしても政策決定はできないとまあ麻痺の状態になった時に市民を直接的に巻き込むということで住民投票をやろうぜという風に言いがちというのは皆さんもなんとなく実感としてお持ちのところだろうという風に思います。基本的にはやっぱり政治家の皆さんや市長や議会の皆さんとい

うのは市民参加ってどっちかというやっぱり消極的な傾向があります。これは自分たちが政策決定権を握っている一部を市民の直接的な決定に任せてしまうということで、自分たちのフリーハンドの部分減らしてしまうような仕組みだからです。えもすると議会を迂回したり議事を軽視するようなことが生まれてしまうということ例えば条例の制定開発については直接請求制度っていうのは地方自治法認められているわけですが、そういった直接請求っていうのも大体首長がちょっとネガティブなメッセージをつけて議会に、そして議会がこれを阿吽の呼吸で否決するというのが大体の事例であってほとんど実際実効性があるというわけではないというのが現実かなという風に、また一首長のリーダーシップとかで市民参加が行われるとそれはやっぱり独自の制度なので、市長が変わるともう形骸化しちゃって継続性がないということ。こういった参加型予算っていうのもブラジルでも継続性が非常に問題になっているところがある。ということじゃあどうすればいいのかというのは非常に悩ましくてぜひ政治家の皆さんの知恵を借りたいなという風に思っているところですがやっぱり市民参加って意義が見えにくい、効果が見えにくいところがいちばん足を踏み込むのが難しいところだと思いますので、今日のこういう科学的な研究で色々効果があるということはわかっていますよということをもうぜひ皆さんに持ち帰っていただいて市民参加の目が日本にも広がればいいなという風に思っております。それではちょっとオーバーしてしまいましたけど私からの講演は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

考察：政治哲学的な話にもなるが、民主主義とは何か？というところから問い直す講義であった。国民の政治参加、住民の政治参加が言われて久しいわけだが、そもそもそれを想定しているはずの民主主義システム自体が限界を呈していると言わざるを得ない。そのようになる原因はどこにあるのか。分析したうえで根源的な要因に対処する制度改革が必要だ。日本でも政権与党による裏金問題から、日本の財務体系に対する疑念がインターネットを介して国民の間で湧き上がっている。日本全体の大きな問題から、魚津市というその一角を切り取ったときに何ができるか。議論を深める役割を負うのは市議会議員らの取り組みにかかっている。まずは広報をさらに重点的に行うことが必要で、従来の住民自治をより広く開放したうえで、市民全般に積極的に語り掛ける場を増やしていく必要がある。

都倉\_20231110\_慶應

2023.11.21 火 午後 12:50 ・ 61分 34秒

koshi

毎年慶應義塾のお話しをしていますが、今年はなんといっても塾高の甲子園の優勝ということですから。大変な盛り上がりだったことを皆さんもよくご存じだと思います。先ほど六大学野球においてもですね、優勝いたしまして、ご存知の通り、その旧館の2階に慶應義塾史展示館というのが2021年にできましたが、こちらで去年、実は野球に関する展覧会をやったんですね。

慶應野球と近代日本というタイトル展覧会をやらせていただきます。この時に、慶應の野球の歴史っていうの、かなり綿密に調べました。歴史資料のどこにどういうものが残ってるかっていうのを調べ上げて、そして、エンジョイベースボールという言葉がそもそもどこから来たのかっていうようなことも、かなり丁寧に調べました。

確かですね。2017、8年ぐらいの時に、こちらでですね、1回、体育会のスポーツの話と、慶應の歴史のことをお話しさせていただきました。その時も私、そのエンジョイベースボールという言葉がどういう意味を持ってきたかっていうことを少し触れたんですけども、それよりも格段に深く、調べがつかまりましたので、今回は、この甲子園優勝の機会に合わせてですね、そこを丁寧に皆さんにお話をしてみたい。

それがまた、福澤諭吉に繋がってくるということですね。で各地の学校現場その部活動のあり方とかっていうことが、非常に、議論になってる部分もありますし、野球に特化して考えても、野球人口が非常に減っていて、急速に、ものすごい勢いで今、野球する子供たちが減ってるというような現実もあるんですけども、部活動がどうあるべきか、スポーツっていうものがどうあるべきなのか、そういうことを考えるきっかけにもなるかなという風に思いますので、お付き合いいただければという風に思います。

ちなみに私自身は、ド文系の人間でありまして、慶應義塾ではちょっと体育会に入っていなかったんですけども、あの塾員センターの中里さんはバレー部でご活躍だったですね。この中にもきっと体育会で活躍された方ってのはいらっしゃるんじゃないかと思いますが、私が塾高に入ったのが1995年なんですけど、その年の夏、ちょうど神奈川県決勝まで塾高が進出して、日大藤沢と決勝戦、私、中高1年生見に行ったの覚えてますが、私、生徒会の役員やってまして、当時の、生徒会長だった山中さんっていう、わかってんだろうな、甲子園行ったら行くんだぞ、みんなとかという風に、こう、カツを入れられたのはすごくよく覚えてると。ただ、残念ながら、その時は決勝戦で負けてしましまして、それから初めて上田さんの時代に甲子園行くことができたのは、2005年になるんでしょうかあ、それからさらに10年の歳月がかかったわけです。今年の甲子園の優勝シーンの右下の方は、様々な物議を呼んだ応援のシーンですね。

それからこちらは六大学野球、この前、優勝したシーン。この野球部のマネージャーから写真をもらったものになります。スポーツ紙各紙がこぞって取り上げてくれたのも、皆さんの記憶に新しいのではないかと。

こちらは優勝した時ですかね。高校野球新時代の勧めと、慶應だから、福澤にちなんで進めという言葉が使われて、その下をよく見るとですね、さらさらヘア自分で考える強制指導なし、

いい顔してプレイって書いてありますね。右側に森林監督新年は常識を覆すっていう風を書いてある。

このように色々な切り取り方をされましたが、エンジョイレイスボールというのが大変大きいインパクトを与えたことは間違いない。大体いつも久しぶりに出場すると髪の毛が盛り上がって、その先の話になる前に負けちゃうのでですね、それ以上深まらないって感じだったんですが、今回はもう髪の毛の話もマスコミの人仕切りして、はい、だんだん、だんだん、こう、話が深くなってきたというところはあるんじゃないのかなという風に思います。常識を覆すということは、え、森林さん書いてありましたけども、まず坊主頭ではない。高校野球の球児たちっていうとこれは固定概念としてみんな持っているわけですけども、それを覆すと、苦境ほど笑えっていう、こう、なんかトレーニングを受けてるそっくりいい表情、ありがとうって言葉を言われたりとかですね、していました。それから、考える野球、工夫する練習っていうこと自分で考えろっていうことを特に重視してるってことが、取り上げられたかと思えます。そして、1人1人が自分に何が必要かっていうことを考えて、全体の練習は少なく自分の自主練習を工夫して取り組みなさいっていうことをやっていると。

それから、積極野球。野球ってというのは、そもそも、こう、打って点を取り合うスポーツだと、こせこせとですね、こう、バンドバンドスクイズみたいなですね、そういう、まあなんて言いますか、上手な野球っていうか、そういうことではなくて、もっとスケールの大きい、あの積極的な野球をやっている、これはアメリカ式の野球っていう風に言っているんじゃないかと思いますが、そういう発想が慶應は非常に強いということですね。それから、人間関係、組織としての慶應義塾高校の野球部、あるいは慶應義塾大学の野球部もそうですが、それに非常に関心を持たれた。例えば、その上下関係が非常に緩いですね。

監督のことをさん付けで呼ぶ。これは敬語だとすごく自然で当たり前のことのように思いますが、それが当然のように部活の中でもやっていて、それが注目をされて、さらには、なんか応援の中では呼び捨てにしちゃうということ森林監督のことを、なんかこう、盛り上がり不足なっていうのが、最近なんか流行ってるようですが、それにこんなぞられて、森林が足りないっていう、なんかこう、コールが生まれたっていうのも、すごく注目されたかと思えます。それから、学業を重視するかということですね。学業成績についての優遇措置みたいなことがない。

それから、入学制度についても、推薦制度はあるけれども、スポーツに特化した、ですね、制度というものは、ないわけです。

よくあるのは、この部は何人今年入れられると、だから、いい選手を選んできて、その枠各部が何人推薦して、その人たちを取るっていうようなことが行われてるわけですけど、他の学校では。慶應高校は、推薦、推薦入試の制度はありますが、その、推薦の内容として、野球が得意ですってことは言えるけれども、野球部で何人っていうことは、やらないということですね。それから、学業成績についても、かなり求めるものは高いってことで。実際のところ、野球部には、相当、努力して苦労してる部分はあるみたいですけども、それでも、最低限の成績を取らないといけないという努力を、彼らは、両立して頑張ってるということですね。

特に慶應高校は、勉強、いい加減なように思われがちですけども、理数系の授業は、結構厳しいですね。普通の高校ですと、もう、理系文系に分かれると、もう、文系に行けば、数学は

こう、最低限数 I しかもうやらないとか、そういうのは当たり前のようにですけども。慶応は、上に上がってるからこそ、満遍なく結構やらなきゃいけないと。だから3年生の数学もみんなやってるんですよ。そういうのは文系に行く普通の高校生からすると当たり前じゃないんだなっていうのは最近よく思うんですが。

だから気にしてもにしてもみんなその数皿をやってるんだとかっていうことを、あの冗談で僕らの間では言ってました。そういう学業もちゃんとやるんだと、学業が主なんだっていうことを徹底してるという伝統もあるかと思います。こういったことをまとめてエンジョイベースボールって言葉で呼んでるということですね。

今回、改めていろんな報道が出る中、私、春の選抜は実際に甲子園応援に行きましたけども、負けちゃいましたけども、あの夏出るってなってから、いろんな行動、かなり関心を持って見ておりました。1番衝撃的だったというシーンはですね、抽選会場ですね、これ。思わずこれパソコンで見たんですけど、右上はこれ、他多数の甲子園球児たちの写真ですね。左下は高校のところアップに移った時のチームですけども、

どこでやったのか私は知りませんが、おっきいかなり大きいホールにびっしりとやっぱ丸坊主の若者が集ってるっていう光景は、ものすごく異常な光景だと感じました。その中にこの黒い筋が何本か通ってるわけですよ。そこはこう、髪の毛があるっていう。そういう光景を目にしました。では、このエンジョイベースボールって言葉は誰が言い出したのかということですよ。

今回はですね、森林監督が非常に注目されて、森林監督はシンキングベースボールという本を、例えば、先ほどご紹介した紙面の1つではですね、アップすると、延長の上田前監督が祝福って言ってコメントが出てたり。だからこの真ん中に写真があるのが上田さんですけども、上田さんが作ったっていうイメージが大体持たれております。上田さんがこの三田評論で森林さんのインタビューするっていうのが出てましたが、その時に、なんでシンキングベースボールなんですか。って聞いてました。あれは出版社がエンジョイベースボールじゃダメだっていうからひねり出したんだって言ってましたけれども。

慶応の野球の歴史を振り返っていきますとですね、越本さんっていう方が、こう、エンジョイベースボールと関係が深いって風に使われることがあります。エンジョイベースボールってのは英語ですから。越本さんっていう方が、日系人ですね。戦前の慶応のあの黄金時代を築いた、そういう監督で、あるいは、リンゴ事件とかですね、本当にこのオールジャパンでこう盛り上がった、オール大学の時代の花形の時代の監督だったり、この方、ハワイ生まれの日系人

本場のアメリカの野球を持ち込んだという風に使われて、だから、エンジョイベースボールといえば、これ、越本さんが持ってきたんだって風に使われたりしますし、実際、上田さんもそういう語り方をされた本もあります。ですけども、えっと、そうじゃないんじゃないかと。福澤先生はですね、そもそも何のために学生はスポーツをするのか、学校でスポーツをするのかっていうことを考えるってこともすごく言ってるんですよ。それっていうのは、エンジョイベースボールっていう時の要素の中のベースにあるもの。小泉信三先生は、スポーツの、3つ

の宝っていうこと練習は不可能を可能にするとかですね、生涯の友とか、フェアプレイの精神っていうことを説いたことをご存じの方もいらっしゃると思いますが、結構、丁寧に、スポーツはなぜ大切なのかっていうことを説いておりまして、考えて、やっぱり工夫する、そういう野球っていうことに繋がることを色々とおっしゃって、あと詳しくそれぞれ紹介します。それから、三宅大輔さん、この方から途端にマイナーになるかもしれませんが、この方は、初代の教育とかです。これ、ちょっと数え方が色々あってですね、巨人っていう名前がつく前にやめちゃってるのですが、巨人軍では公式には数えてないらしいですけども、最初にあったチームの、監督をやった方、プロ野球の設立に大きく貢献された方です。

それから、慶応の野球部の初代の監督でもある、それから、阪急の初代監督でもあるっていう、そういう方本当に、日本の野球の歴史を作った人が、1人野球殿堂入りもしてるような方です。

この方が、アメリカの野球ってのはこういうものだっていうことを非常に熱心に紹介していて、良い野球のあり方ってのはこうだと、こうやって楽しむんだっていうことを説くんですね。いろんなところで説いて、この三宅大輔さんっていう方もかなり大きな影響を与えてるっていう風に考えられます。それから4人目が、前田雄吉さん。

この方の監督時代は、ここにいらっしゃる方も、体験されてる方もいらっしゃるんじゃないかと思いますが、任期18年、野球部の監督をされていた方です。この方がエンジョイベースボールって言葉を使い始めたってことは、これ間違いのないっていうのが今回の結論になります。

しかし、それを、言葉を使い始めたのは前田さんだけでも、そこに繋がってく思想っていうものは、福澤諭吉先生からちゃんと繋がってるんじゃないかっていうのが今日の話になってまいります。日本の伝統的なスポーツ観、野球観っていうことを次に考えてみたいと思うんですけども、日本でスポーツ、体育というものがどうあるのでしょうか。

私、あんまり文武両道とかはあの慶應ではふさわしくないんじゃないかなと思っております。

なんでもどうだという風に日本人は考えがちですね、かくあるあるべしっていうのが、何かあって、決まった、こうあるべしっていうのがあってですね、そうしないといけないんだっていう、精神を、あるいはかくあるべきっていうものを重んじすぎるって言って、生むことがないじゃないか。野球について言えば、これが野球道っていう考え方になって、一球入魂っていう、これは早稲田で誕生した言葉ですけども、こういうものに繋がっていく。元々、この文武両道っていうのは、武家諸法度に武士があるべしっていうことで説かれてる言葉なんだそうです。

こういうものをこう突き進みすぎるとですね、合理性と不可逆性が生じるようになっていくと、気合とか根性、死後の世界になっていくわけですよ。もう、心のあり方っていうのを重視するあまりですね、実質っていうことがどうなるかっていうことではなくて、その向き合い方ばかり求めていく気合とか根性でそれに従わないとっていうことになっていくと。過度な規律、先輩をとにかく重んじなきゃいけない、下級生はもう奴隷だというようなものとかですね。あったら硬直して、何かこう、直立不動で挨拶しなきゃいけないとかですね。

あるいは、集団主義ですよ、1人が悪いことしたら全員で制裁を受けるというようなこと、これ、高野とかでも、色々、よく、過去にはあったかと思えますけれども、今でも、何か不祥事があった時に、どう処分するかっていうこと問題になるかと思えます。

それから、技術を蔑む。テクニクっていうことは、そればかりにこだわってたら、きっと大きなですね、向き合い方ができないっていうのは、正しいのかもしれませんが、しかし、技術を高めるっていうことは、何か、協議だけじゃなくてですね、物事に取り組むことにおいては、非常に重要なことなわけですけども、そういうことを軽んじなければいけないっていう考え。歪んだ考えにこう繋がっていくってところがありますね。それから、遊戯性の否定。本当は楽しいからやってるはずなのに、楽しんではいけないという。競技は神聖なものだということで。楽しいなんて言っちゃいけないし、白い歯を見せちゃいけないと。

オリンピックで超楽しいですとかね。今では当たり前前にそういうことが先週言われるようになりましたけど、あれは、やっぱり革命的な言葉だったから今残ってるわけですよ。

いろんな選手のいろんな名言がありますけれども、やっぱりそれはある意味こういう固定概念を破ってきた言葉として記憶されてるんじゃないかと思えます。それから、全てをかけなきゃいけないということですね。だから、何かこう、邪心を生まないように、それに勝つためっていうことで生まれたのはきっと丸刈りなんじゃないかと。私はこれは出家なんじゃないかっていう、よく思ってるんですけども。

要するに俗世を捨ててですね、全部を野球に捧げるっていう坊主丸刈りにするっていうことになると思うんですよ。青島健太さん。去年の展覧会の時に色々お手伝いいただいて、話も、青島さんの頃は、慶応と東大以外は大学の丸刈りだと言ってましたですね、今、さすがにそうではないんですけども、

長野県の、とある場所に行ったんですけども、そこで会った方、この方は慶応とは関係ない方なんですけども、話したら、甲子園の話になって、自分らの頃には、渡辺泰輔さんがとかって話になって、1960何年から、その、上田さんになる前に、直前に、甲子園行ってた時は、渡辺大輔さんのあの時は、髪が長髪だっということが話題になったのは覚えてるんですね。新米にそういうのが出てたとかっていうようなことを言っていました。だから、ずっと、慶応は髪があるわけですけども、髪剃らなきゃいけない、刈り上げなきゃいけないというのが、常識とされてきたわけです。それから学業軽視も、全てを球技にかけるから、

勉強なんかしないでいいんだっていう考え方に繋がってくわけですよ、シーズン制っていうのは、こう、シーズンオフになると、他のスポーツやるっていうのが、アメリカの中だと当たり前になるわけですけど、なんか日本だと、そういうことするとですね、浮気をしたような気持ちになってですね、やっちゃいけないことやってるような考え方になって、そういうのが定着しないんですよ。

それから、プロこれはお金儲けをするっていうことですね。神聖なる球技でお金儲けをするっていう考え方になると、これは、プロを蔑む、昔は職業野球って言ったと思えますし、さらに前になると商売人野球っていう表現が出されてますね。それ自体が非常にこう、やっぱり蔑まれたってことがわかります。勝利が全て。スモールベースボール。勝たなければ、



特に甲子園が厳しいトーナメント制なので、1回負けたら終わりですよね。そうすると、どうしてもこう上手に試合を運んでですねバントやって、あるいは、ゴロ打って相手のミスを誘って、みたいな、そういう発想ですね。試合を運ぶっていうことになって、非常に消極的な野球、監督の言うことは絶対従う、自分の判断でやって、なんかミスでもしようものだったら、もう大変なことになるっていう、そういう世界ですよね。これ、甲子園の弊害っていう風にも言われて、大学は、リーグ戦でやって、勝ち点式でやってるっていうのが、非常に、いいですよ

えーと思います、はい。こういう日本的なスポーツ感っていうものが、野球の中では、なぜか大変色濃く、こう、歴史を重ねていくことになります。典型的な文章をちょっと2つご紹介してみると、一高、東大に繋がる流れっていう風に考えていただいていると思いますが、去年がちょうど野球、日本150年記念やっておりましたが、それは、東大の前身の学校に伝わって150年。それが最初なんです。だから、そのいわば日本において我々が始めたんだっていうプライドのある、一高東大の流れを組む人たちが出していた野球連邦という雑誌がありまして、これの中に出てくる文章っていうのが大変興味深いです。日本的な保守的な技風のこすいをねがう

アメリカの野球は独特であって、精神も修養もあったものではないと。なんということなく、子供の時からただやるという次第。やっぱり馬鹿にするわけですね。もうプロプロなんていうのは話にもするの汚らわしいってわけです。プライベートっていうのはアマチュアということだと思いますが、アマチュアの国で技を技としてやるテクニックだという一点張り。個人の欲するところではない。だからまあ植民地、例えばフィリピンとかですね、そういうところでやってるわけですね。そういうところはもっとダメだと。

我が日本の日本的野球、武士的野球は、実に一高的のそれではないかとしかり、僕があえて職に一高的野球を紹介するとするのは、この日本的な気風の個性を願うゆえであってということこのナショナリズムとこう結びついてるんですね、日本的な野球っていうのが。アメリカ的な、ああいうチャラチャラしたですね。軽薄な野球と戦ってるっていう。この日本的な野球が素晴らしいだってことを称揚してるわけです。

次にご紹介するのは、1935年ですが、昭和10年富田水主、この方は早稲田大学の野球の確立した神宮学生野球の父という風にも呼ばれたり、この人が書いた中東野球読本というものこれはですから、甲子園を目指す子供たちのバイクみたいに呼ばれていた本、戦後もあの版を重ねていた本です。その中にですね、こういうくだりがあるんですね。野球部というのは野球によって心の修行をするところであって、言わば自ら難行苦行の渦中に飛び込んでいくのも当然だと。

いかなる苦悩にも打ち勝って初めて出来上がるものであるから、コーチ、先輩からあくまで痛罵され嘲笑されても忍従せねばならない。楽しみにやる野球に血の涙を流すなどバカバカしいと思うものは野球部に入ってはいけないし、入部させてもならない。それらは初めからゴム球でも野球の真似事をしておれば安全である。と、こういう、激しい言葉ですよ。

こういうのが野球の野球に向き合う心構えだという風に言ってるわけです。それから、こちらですね、星野くんの二塁打っていうこと。もしかしたらご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、国語とか道德の教科書に割と最近まこの10年以内ぐらいまどこの教科書に載っていた読み物

昭和20年代の終わりぐらいから、いろんな形に少しずつ、アレンジが加えられてる部分もあるんですが、ずっと載ってきた読み物なんです。これはですね、どういってお話かっていうと、星野君が、野球チームに入っておまして、全国大会を目指す決勝戦 ツーアウトバッターボックスに入るかな。その時に、監督の命令として、バントを命じられたのに、彼は打っちゃうんですね。二塁打打っちゃう。それによって結局サヨナラ勝ちするんですよ。

けども、翌日、監督がそのチームの全員を集めて、その星野くんを前に呼び出してですね、君はみんなで監督の言うことに従って、このルールを守って野球をやるっていう、そのみんなの決まりを守らなかったと、破ったという風に言われて、全国大会での出場を禁じられるっていう、そういうお話です。これ、何を教訓としている読み物なのか 言うと、書かれた当時は、民主主義の時代になって、みんなで決めたルールに従うということを経験したというものであったそうです。

今はその、多分これをどう思いますかっていうことそういう投げかけとしては面白い読み物なのかなっていう風には思うんですけども、だいぶ時代錯誤な感じはするわけです。しかし、それがついこの前まで載っていたということになります。

慶応の野球の歴史っていうことを次に考えてみたいと思うんですが、まず、福澤諭吉という人ですね。福澤先生という人がこの慶応という学校を作った。それがエンジョイベースボールにどう繋がってるだろうかということを考えてみたいと思います。

福澤諭吉という人は、非常にこう、アカデミックな人のようなイメージが、万札の顔になってることあるんですけど、非常に激しい闘争的な人物そういう生涯を送った人物で、何と闘ってたかっていうと、封建社会ですね。封建社会っていうのは、しいて言えばこう、儒教道德っていうことに支配された、上にいる人は上、下にいる人は下だと。

それがこう、きちとこう、身分が、上は上、下は下と収まってる社会ってのは正しい社会であって、そうあるべきなんだと。世の中があるべき道であって、そこに沿ってくってというのが人として正しい生き方であると。変わらないことが善である。

何かおかしいことがあると、自分がどこか誤ってるんじゃないかっていう、精神的に、それをこう、内省的にですね、振り返って、自分をこう、言わばこう責めていくっていう構造を持つてるのが封建社会っていう風に言っているんじゃないかと思えます。これに対して福澤は、文明の社会を作っていくことと。

らら

何千年も前に中国の偉い人が言った考え方に沿って生きていく社会じゃなくて、今生きてる人たちが自分たちでより良い社会を作っていくべきだということを行ったのが福澤諭吉であって、そのためには、1人1人が考える力を持たなければいけないと。考える力を持つためには、学問が必要である。その学問というのは、西洋の実証的な、合理的な、そういう学問を、

学いかなければいけないんだと。そして、変化し続けていくことがいいことなのだ。

何も変わらないっていうのは悪いことなんだっていう。そういうような考え方を、みんなにこう説いた。それが福澤諭吉という人ですね。

活発に交流する1人1人が平等で対等な個人になっていくと。だから、年を取っていても、幼くてもですね、1人の人間としては、それぞれ尊重されて、リスペクトされて、そして、あることについては、年が若い人であっても自分の先生になるかもしれないし、年が行っていてもいつまでも学ぶ心を持ってなきゃいけないって、そういうことが、半学半教とかですね、そういう言葉にもなってくわけです。

福澤自身が誰に対しても区別せず何々さんと呼んだというようなことも、そういうことの表れなわけです。

科学的な人間の把握、人間っていうのはどういう風にできていて、どういう風にものを考えて、どういう風にその体具合が悪くなって、どうすれば良くなるか、そういうことをすごくこう、生理学的にと言いますか、科学現象としてこう、ある意味把握したっていうのが福澤諭吉という人ですね。それは、なんていうか、精神 ですね。

こういう心の持ち方をすれば健康になるとか、そういうことではなくて、こういう風に、この部分の物質が足りなくなるとか悪くなるとか、そういう、非常にこう、科学的な目人間の体っていうものを見たっていうのが福澤諭吉の原点であって、それがあらゆるものの考え方の基礎になってるっていう風に言えるかと思えます。

それを福澤は実学とサイアンスという柄を貼ったりするわけです。そういう人ですので人間が勉強していく上座学ばかりやってると良くない。気を晴らすために、体を動かすことは教育の一環として大事だという考え方を学校教育に初めて導入した、これが1868年のことですね。

そして自らも、ここには、散歩してる姿の写真を載っけてありますが、居合をやったり、乗馬をやったり、あるいは、米突きって、こう、米の精米作業ですね、それをやったりですね、体を鍛えるっていうことをやって、それは社会活動を活発にやり続けるために必要なことであると。まさに、緒方先生のところで学んだ、そういう健康に対する考え方から、福澤はそういうことを実践してたという風に言えるわけです。

この福澤の考え方をですね、一番表してる文章が、体育の目的を忘れるなという時事新報の社説1893年に明治26年に書かれたものです。これを見るとですね、この文章はある日の新聞の社説なんですけども、慶應義塾のスポーツの基本的な方針を説いているものです。1日の社説として乗って終わりではなくて、その後、慶應義塾の塾生向けの特本、前に配られる読み物の本にですね、ずっと掲載されて、戦前はずっとこう使われてたものなんです。

そんなに厚いもんじゃないです！その中に入ってたんですね。多分、30編ぐらいしか入ってないと思うんですけど、そのうちの1個に選ばれてた。だから、慶應義塾のこう、スポーツタイプっていうものの考え方の基本として、ずっと尊重されてた文章なんです。

これ、何を言ってるかっていうと、体育っていうのは、体の発達を促すためのものだと、それによって不羈独立の生活を得るんだ、そのための手段なんだということ言うんです。だから、

体育そのものにあまり価値を置かないですね、福澤はそれ自体が有意義だっていうことを言うんじゃないで、体を作るためにはしょうがなくある意味やってるんだと。

それが楽しいと言ってですね、学業をおろそかにするってのは言語道断だと。遊戯に父兄、学業を怠り、果ては不養生になり、不偏向を繰り返したりってのは、これ言語道断だっていうことが書いてあるんですね。さらに、勝ち負けにみんながこだわってですね、ただ、勝つことをみんな望んでですね、熱狂してると。そのために、練習に励みまくって、学業を疎かにすると。そんなに勝ちたいんだったら、もう何も高度な勉強するために学校に入ってきている人じゃなくて、その人足でも車夫でも、もしくは力士でも、今言ったら相当問題ですけども、こういう言い方を実際にしてるんですが、そういう時でも集めてくればいいじゃないかというような皮肉を言ってるっていう。ただ、これは、皮肉って言って笑ってられなくて、先ほど言ったスポーツ推薦はですね、こういうことと紙一重なんじゃないかと、ちょっと言葉を選ばなきゃいけないんですけども、

側面あるわけですよ。だから勉強しなくていいと、とにかくこの競技だけやってればいいっていうことをやってる学校が実際にあるわけ 僕は、まさに福澤が指摘してるんじゃないかと思います。ちょっと原文を紹介してみますと、そもそも人生に体育が必要ならなぜなるか尋ね体をして運動を壮健ならしめれば、従って精神もまた活発豪快になる時は自然の法則だ。

心身ともに健全なるものは、よく社会万般のたたきをおかして独立の生活をなすことを得るのみあるがためなり。体育は人をしてふき独立の生活をえせしむの手段です。もしも単に身体の発育のみを重じ、世間に腕力家の多からんことを持つて唯一の目的となすものがある。ま、これは今、ちょっと飛躍をすれば、福澤諭吉は、学問のすすめで、心身ともに健全な人は、社会のしがらみにとらわれずに自立した生活を送ることができるかと述べています。体育は、人を強くし、自立した生活を送るための手段であると考えています。しかし、体育だけに重きを置き、世間に力を誇示することを目的とする人がいるとすれば、それは今の時代には合わないと批判しています。

要するに試合をやってですね、勝つっていうことだけを目指していたから、世間で1番の力持ちが多いことを喜ぶんだたらっていう考え方、その試合に勝つことだけを求めていくんだたら、っていう風に読み替えていいんじゃないか。文弱の書生拜に進めて増えてなる力行をなさしめるよりは、むしろ平素よりその行になれたる下等社会の人足者もしくは力士の輩を集めて腕力を発育せしめるの便などに近づ。

福澤諭吉が体育の重要性和限界について述べたものです。彼は、体育は人を強くし、自立した生活を送るための手段であると考えていますが、それだけでは不十分で、学問や道徳も必要だと主張しています。彼は、学問のない腕力家は、時代にそぐわないと批判しています。彼は、学問のある諸生派に体育を教えるよりも、体育のある下層社会の人々に学問を教える方が効果的だと提案しています。彼は、体育と学問のバランスをとることが、人と社会の発展につながると考えています。

大体私が言ってることは嘘じゃないと思うんですけども、結局何のためにやってんのかって

言ったら、これは独立のためなんだってということを考えるわけですね。独立して生きていくために、そして勉強していくためにも必要なこうこう体を作っていくためにタイプをやっているんだ。スポーツをやっているんだと。

学校の中でですね、いうことを言っているわけです。だから、学生としてスポーツをやっているということの自覚を促して、学生なんだってということの自尊ですよ。学生がスポーツやっているんですから、スポーツやっている人が、時々勉強をしているんじゃないかと、学生がスポーツをやっているわけですから、

やっぱりその学生なんだって名乗って恥ずかしくない自分であるべきだということを書いてるっていう風に考えれば、独立自尊ってことを言っているっていう風に考えられるんじゃないかと。小泉先生はご存知の通り、テニスの選手として活躍された方ですね。そして、庭球部長を務められた。そして本職は経済学者で塾長を務められた。

今の伊藤塾長は、小泉先生以来の庭球部長だった塾長だということになりますが、慶応スポーツの中興の祖的存在として言われます。スポーツが与える3つの宝っていう演説が大変有名、中でも練習は不可能を可能にする体験。これはスポーツでしか得られないものだっていうことを説いたことは、多くの学生に今でも、大きな刺激になっているという風に言えるかと思えます。この書ですね。

小泉先生は結構激しいスポーツを自らもやっていた人ですから、その猛練習みたいなことを決して全否定はしないですね。猛練習は必要である。練習は不可能を可能にすると。私は猛練習大賛成者の1人であるが、弱いものいじめに類する病的蛮習の速やかにスポーツ界から一掃されることを願ってやまない。という風なことを考えてることがあります。ですから、決して、このめちゃくちゃな練習ですね、合理的でない、そういうしごきのような練習をすることを賛成するものではないけれども、やっぱり極限まで自分と向き合う練習みたいなことはスポーツでしかできない、そして学生時代にしかできない体験だということ尊重するわけです。違う文章ではこういうことを言う、野球の投手が打者に対して、第1球はどこへ何を投げようか、ストライクを取った後はどうしたらいいか等の作戦。

また、打者の側として、相手の投手のいかなる球に備えるべきか、一歩進めていかなる球を投げるように誘うべきか。単に肉体的熟練のみでは解決されない問題であって、それは心と心との闘争、しかも高度の闘争となる。ここに私は無限の興味を覚えると。だから、単に闇雲に来た球を打つっていうスポーツじゃなくて、考えると。

そして、それに対して、いわば精神と精緻ということを書いてあるわけですね。だから、肉体的な関連をするだけじゃなくて、知的なあるいは心理的な強靱さの形成っていうものをスポーツがもたらすものである。

ある意味ではスポーツしかできないものなんだっていうことを言うわけですね。そして、独立した人間を作っていくと。さらにその先にですね、各勝負を争うことがあるのでそこでフェアプレーと言うことが大切になる。正しく勝つということに尊び、卑怯な汚い勝ち方、負け方をいやしむ意味があると。

英語でハードファイター、アンドグッドルーザーであれというかつ卑怯を憎む精神が、スポーツが青年には教える最も貴重なものであるということであって、正しく勝つことを言うわけ

ですね。卑怯な手をこう使ってでも絶対に勝たなければいけない。どんなことでも、手先のですね、ことをやっても、とにかく勝てばいいんだっていう勝利至上主義ではなくて、やっぱり自分たちが信じるやり方で正当に堂々と勝つということが大事だということを言うわけですね。だから、ある意味こう、モラルの形成にも役立つということ言うわけ。正しく、かつ己の本を守るは、要は自尊っていうことです。

それから、仮に対抗競技に熱中した体験を持たずに終わった学生生活は学生生活と言うに値しないというものがあっても、それはさほどの言い過ぎとは思われぬ。これはあの早慶戦を見に行くことについて書いた文章なんですけれども、スポーツを見ることにも教育的な、かつ、愛校心なんて言うと、今あんまりいい顔されないかもしれないですが、言い換えればシチズンシップ教育ですね。自分が所属してるコミュニティに勝ってほしいっていう、そういう気持ちで育む。自分のコミュニティに対するこの、なんていうか、帰属意識を高め、そしてそこに貢献したいという気持ちで育むという意味でスポーツを見に行くという体験も価値があるんだということ言うわけですね。

俺の学校はいい学校だからこちらへ来いと言って引っ張るのは当たり前前の少しも差し支えないことであるが、それが一個を進めて選手の入学試験を免除する、授業料を割引または免除する、出席兆候の義務を免除する、何かの名義を設けて生活費を支給するということまで行けば、それは立派な選手の職業家であって、選手は選手で食うことになるのである。学業と運動と両立させることは、どちらか一方に偏重するよりも困難であるには相違ないが、運動選手がこの困難を負担するのは彼らにとって損失あるものではない。この困難は選手の精神を緊張せしめ、奮発せしめる刺激となるだろうっていうことですね。

また、このようなスポーツ推薦生を持たないんだと。箱根駅伝も苦労して、今クラウドファンディングなんかもされてるようですが、どうしてそういう選手を1人でも2人でも採らないかという風によく言われるんですが、やっぱりそれは違うだろうっていう考え方が、こう歴史的に慶応の中では繰り返し説かれているわけです。困難でも学業との両立を目指していく、その困難に奮発しろと、その教育的効果の方を尊ぶというのが、慶應の伝統と言っていいんじゃないか。

そして、いわばそれは学校としての自尊。ここまでは譲らないというところを、ずっと持つてる学校だっていう風に言えるんじゃないかなと思います。

そして、次にご紹介するのが、三宅大介さんですね。三宅大介さんは、ご覧の通り、これ、野球殿堂のプレートですが、お父さんが三宅讓三さんという方ですね、後藤正二郎の秘書とかも確かやってやったりするような人なんですけども、そのお父さんにくっついて、福澤を知ってるんですね、この人はちっちゃい頃に、普通部から有力な野球の選手として活躍しております。野球部が初めてアメリカに遠征した時のメンバーの1人でもあります。早慶戦が、あまりにも過熱してですね20年近く中断した時代があるんですけども、その時代の主力選手ですね。大リーグ事情にも非常に精通していたことで知られており、先ほど紹介した通り、慶応大学の野球部の初代監督であり、巨人、阪急の初代か、野球のあり方とか理論をですね、ずっとあの昔の雑誌に書いているような人物です。この三宅さんが、あの日本の野球の歴史において、欠くべからざる人物として、繰り返し紹介しているのが、このアーサー・シエイカーさんと

いう人物なんですね。

この人は、慶応野球部がですねえー1910年に招聘した大リーガー2人のうちの1人なんですね。この直前に、慶応野球部はハワイに初めて遠征してまして、その時にハワイで出会ったんですね。ぜひ慶応の野球部に教えに来てくれてという約束をして。1年ぐらいいしてですね、その機会がやってきて、彼は大リーグの、ニューヨークジャイアンツというところの選手ですね。ジョンマグロという、今でも野球理論の基礎を築いたっていう風に言われてる人物。猛将っていう風に呼ばれたりもする人で。色々戦略ですね、ヒットアンドランとかですね、そういうのもこのマグロさんが始めた、あ、マグロになってますけど、マグロですね、マグロ、マグロ監督ということですが。

この人のその戦略を体系的に全部事前にメモしてきて、シェーパーさんは、でそれを野球部の選手に実演して見せながら、講義をしたらいいんですね。1か月間、神戸でこの講義をします。最新の作戦、ハウトゥーウィンって、当時みんな読んでます。これをノートに、みんなで一斉懸命、夜になったらですね、時間を取って、みんなが覚えてることをノートに書き出して、それをみんなで見合わせて、1冊のノートにまとめたんだそうです。それは虎の巻っていう風に呼ばれて、代々、慶応野球部で引き継がれていたそうですが、残念ながら、今は残ってません。代々、野球部に入ると、それを暗記するところから、新入り部員は始めたという風に伝えられてます。

この中こうすればこうなるだろうっていう、言わば、定石みたいなものを、全部、パターンとして学ん合理的、科学的な、そしてまた、どうやったら勝てるか、より多く点が取れるかっていう、戦う野球っていうようなことを、教わってたという風に言われており、この三宅はですね、このシェーパーさんと生涯にわたって交流をして、このことを語り継いでます。この三宅さんはですね、先ほど紹介した同じ時期にトルーベースボールっていうんですね、タイトル、大体このこのタイトルからして挑戦的だと思うんですね、野球道だと、物質的な野球とかやってるその方でトルーベースボールとかやってるわけですね。本の表紙は、いかにもこう中学生の、日本人の中学生がこう野球してますって感じなんですけど、これは多分これがリーダーだろうなっていう感じの、こう書きぶりの絵になってですね。中にどうということが書いてあるか。1番最後の部分、後書きのところでもさらっと書いてあるんですが、中はもう本当に戦略書なんです。

これは、先ほど紹介した、シェーパーさんに教えてもらったマグロの戦術書を噛み砕いて、こう再構成して、大学、この本で紹介してるらしいんですけど、最後のところでこういうことを書いたんですね。

野球には創建の身体や犠牲的精神に堅忍不拔の精神が必要であるか、犠牲や不拔の精神を特に養いたいのであれば、野球の練習をする間に修身養生の本でも読む方がはるかに有効であろうと。だから、精神を重んじるんだったら、道徳の教科書でも読んだほうがいい。何のために野球をやるかと言えば、野球をやりたいからやるのであって、こう書いてるんですね。野球に興味を有するからやるのである。

そうですね。こういうことを当たり前と言うっていうのが慶應の伝統だったということをおし上げたわけですね。三宅さんは、戦後すぐ、日本が戦争に負けてすぐにですね、野球の本を、こ

れもベストセラーになっていて、これは初めにの部分、序文で書いてあるんですけども、

従来の日本では、封建的階級制度のもとに、人々が命令によってのみ動かされる習慣ができた。命令を発する階級が人種の違った人間であるように考えさせられ、命令を受ける一般市民は自ら考え、自ら研究する機会をなくし、命令なきところに行為が行われないようになった。学者がおられ、技術者が軽視されたことが物事の科学的研究不足を招来した大原因であると考え、

これは多分戦争のことを暗に言ってるんだと思いますけども、そういう日本を作ってしまったと。民主主義の本家である米国から直輸入された最も民主的であるべき野球においてさえも同様のことが言えるって言ってんですね。

学問的に野球を学ばなければいけないと言って、この本を発行してるわけです。

そして、この三宅さんもですね、やっぱりそのおー、フェアプレイって言うこと言うんですね。スポーツ精神を考えて試合をしているものには、技術の優秀による達し方でないものは、たとえ勝利を得ても大して楽しいものではないことに気がつくみたい。勝負にあまりに肯定するに、知らず知らずの間に機能的テスト以外のことを考えることになる。

と。従来、日本ではよく野球を通じて精神修養をするという言葉を用いる人があった。しかし、私はこれ反対であると考え、

人間としての修行が後で野球の修行が先ではいけないと思うと、できた人間が野球をやるということを言ってるわけですね。そういう人がプレーをして正しく、ある意味野球をプレーすることによって勝利を得ることが楽しいんだって言うことを言ってるわけです。そして、この三宅さんがですね、実はエンジョイって言葉を元々使ってたんじゃないかということも、私は見出しました。1950年楽しい野球の話っていうエッセイを三宅さんが書いて、日本人は、アメリカ的な野球の捉え方を、知らないということを書いて、必要なことはベースボールゲームをエンジョイするという気持ちであります。これは、日本人が是非、アメリカに習って、真似をしてもらうことが望ましい。

そういう気持ちこう、ゆったりした気持ち愉快的気持ちで見ていったならば、野球の見え方が全然変わってきますよって言うことを説いています。

前田さんは、大学の監督を2期18年やった方1960年から65年、ちょうど早慶六連戦の時になってすぐだったんですね、負けちゃいますけども、それから、1982年から93年にかけて、2期目の監督時代を過ごしてます。

この直前に、福島監督っていう方が、野球部の監督なんですけども、この方は、報徳学園からからですね、野球部甲子園で優勝されたりとかして、ですけども、大学の野球にはまだちょっと合わなか部分があって、大学野球をこう視野に、あの高校野球みたいにしてしまったっていう批判を受けたりされたようなんですけども、なかなかこう成績が上がらなかったんですね。言わば1期目でそれなりに成績をあげた前田さんがカムバックが求められて登場したという形になるわけです。



あ、前田さんは、この2期目、監督になって、まずは何をやったかっていうと、アメリカ遠征を復活させるっていうのをやってですね、先ほど紹介した越本さんの時代に、昭和3年か4年から、そんぐらいの時代に、遠征をして以来ですね。

昭和3年ですね。ずっとアメリカ遠征できてなかったんですが、先生にもずっと敬遠してたアメリカ行くって言ったら、

なんでこんな時期に行くんだって言われたらしいですが、前田さんは弱いから行くんだっていう風に言ったそうなんです。

55年ぶりにアメリカ遠征っていうのをやりました。この時に、やっぱりアメリカ的な野球っていうのが、やっぱり自分の考え、信念とも合って、慶応の考え方にもマッチしてるはずだっていう確信を得て、そのアメリカ遠征に際して、エンジョイベースボールっていう言葉を使い始めていますね。だから、今まで福澤諭吉、小泉信三、三宅大輔っていう人を紹介しました。あるいは、越本さんのいろんな言葉が、こういう人たちが、なんとなくこう、慶応ってこういうものを大事にしてきたよなっていうことを共有してるんだけど、言語化ちゃんとされてなかったものに、前田さんがエンジョイベースボールという、こう名前をつけた、いう風に言えると思います。

で前田さんは大変多くの野球指導者を育てていて、この教え子の中に、塾校野球部でエンジョイベースボールという言葉を広めた上田さんがいるわけですね。上田さんは、大学生としては福島監督時代なんですけども。高校の先生になられてから、前田さんに呼ばれて高校でエンジョイベースボールを広げろと言われてですね。それで塾高の野球部の監督に就任したっていうこと前田さんがその後ずっと指導して。前田さんに刺激を受けて、エンジョイベースボールっていう考え方を強化していった人物です。

今の堀井監督、大学の監督もですね。前田さんの2期目、まさにアメリカ遠征メンバーですね。1983年、この年から3年に1回アメリカ遠征するというのが野球部の伝統になっていくんですけども、その最初のアメリカ遠征のメンバーの1人が堀井さんですから、大久保さん、エネオスの監督とかですね。飯出さんは東芝の監督だったかですけども、こういう、非常にこう、社会人野球なんかで活躍された人たち、野球指導者を育てていきました。

前田さんは、本当に甲子園的な野球が大嫌いという人ですね、激しい言葉で、甲子園的なものを批判してるんですが、ご自身が陸軍幼年学校出身なんですね。

このことはあんまり語られていないんですけども、やっぱり丸坊主にして、みんなが脚を揃えて行進をしたりですね。もう上官の命令絶対自分で考えないことが正しいとされる、そういう空間にいた苦痛っていうのを、誰よりも身に染みていて。前田さんの自伝を読みますと、1ページ目1行目で8月15日、戦争が終わった。これで野球ができるってところから始まるんですね。もう1回、地元のコーチの中学に戻ってですね、上東中学かな。野球ができる。その次の年に甲子園に出場されるんですけど。

その体験っていうのが原体験になるんじゃないかと思われま。これが前田さんの残されているノートですね見ていただきますと、わかりました。特に①野球史観って書いてあるところでは、私が今申し上げたような日本の野球はおかしいっていう歴史が書いてあって、②坊主頭は決して高校生らしくない。③でグラウンドへのお辞儀は虚礼である④なぜ大声を出し続けるのか まあ、むやみにこう、なんか大声を出し出し合うっていうのが美徳のように言われてるこ

とに対して、前田さんは非常に嫌悪感を示してですね、意味のない言葉は発するなど。うるさいって言って、みんな止めたそうですね。それから、エンジョイベースボールっていう風を書いてあります。これは、1987年頃のノートです。

こんなことが書いてあります。今ご紹介したのが2つ目になりますけど、鬼コーチの命令で強制される練習は、労働ではあってもスポーツではない。野球監督は庭師であれ。勝手に練習せよベンチを見るな。監督の言うことを聞くな。野球は打って点を取り合う競技。打て打て打て打て

今だったら当たり前ですけども、やっぱりゴロを打って、相手のミスを誘って、みたいな発想が非常に強い時代だったんですね。フライを飛ばせば外野手が。取るか取らないか1回しかチャンスがないと。だけど、あの前田さんは、フライを飛ばさなければ、スタンドには入らないっていう考え方ですよ。そういうことを、アメリカでははっきりとそういうことが言われてきた。それでやっぱり日本の野球はおかしいということを確認したようです。

また前田さんは、この野球は教育ではないっていうことをすごく言うんですね。野球だけで人間ができるはずがないってわけです。高校野球は思い上がっていると。たかが野球じゃないか。野球は所詮、味の素の主食ではない。学生が野球をするのはあれだけど、野球選手が勉強をするのはバツだと。有名選手はいらない。

練習を工夫し、なんとか良いチームを作って勝つから面白い。想像の楽しみ、常識に対する反抗精神。こういうことを、ことあるごとに説いて、そして、そういう姿を学生たちに見せていたというのが、前田さんの野球部ということでした。すいません、あと、まあ、5分ぐらいで終わらせます。

前田さんの前でですね、こういうことを言ってる。この部分は私、大変好きなんですけども、こういうことがはっきりきます。世間では野球選手が試合や、練習のため授業に出られなくて、当然卒業できなくても仕方ないと思う人が多いが、私はこれに強く反発する。

よく慶応と早稲田の大学の野球の選手が合同で同窓会をすると、本当かどうか知りませんが、慶応の選手はみんな何年卒って書いて、みんな卒業してるから、早稲田は何年入学って書いてあるっていう話があってですね、ほとんど卒業、有力な選手がほとんど卒業していないっていう話があります。

そういう露骨なことはあまり前田さんは書いてませんが、そういうのが常識だと思ってるのは、強く反発すると、野球部員にとって授業に出席するのは義務ではなく、最も基本的な権利である。いかに優れた指導者でも、その人の考えを守って野球で勝利しさえすれば立派な人間になれると考えるのは危険な思い違い

学生野球の指導者にとっては、部員が努力すれば学業と野球が両立できる環境を与えることが逃れることのできない義務であり、自らを律するモラルだと私は考えている。ある意味ストイックな教育的な監督もいないんじゃないかと私はむしろ思うんですね。だけど、野球は教育じゃないんだと。

あくまで学生の本文は、あー学問なんだということをお願い続けたのがこの前のか。だからその限られた非常に厳しい条件の中しかし勝つことを目指して努力するっていう、まあ前田さん自身が1番野球をエンジョイしてた。エンジョイってのは、その、本当にヘラヘラ楽しむっていうことじゃなくて、そういう苦しい中これをどうやって乗り換えてやろうかっていうことと戦うっていう、そういう楽しみをしていたのが、監督なんじゃないかなという風に思います。その結果として、慶応では、冒頭でもご紹介したようにですね、学生の学校だと、授業出席を前提に練習を組むっていうのが割と当たり前になって、もちろんそうじゃない部分もありますけども、

最低限、事業を削るのは最低限科学性、合理性を重視する、全体練習が少ないことを尊重する、自ら考え、工夫して自主的に練習すると。緩やかな上下関係。先ほどの三宅大輔っていう人はですね学生に大ちゃんと呼ばれてたっていう記録が残ってまして、越本監督は親父って呼ばれ、

それから前田監督はじーさんって呼ばれてますね、50代なんですけども、それから、先ほどの、森林が足りない、そして、アメリカ的な、闘争的な野球をエンジョイすると。積極的、闘争的な相手のリスペクト、チームプレー、駆け引きの心理戦も楽しむという、こういう、あの一慶応のスタイルが生まれていたと。さらに、まあ、上田監督、森林さん、

野球を通して日本を、世界を変えるんだって語るわけですよ。日本一って言葉もそうですけども、それだけじゃなくて、古い体質の日本の高校野球を改革するとか、新たな高校野球の姿を示しながら、その価値を高め、人を育て、社会を豊かにしていく、自分たちが進んで野球をやっていくことで社会が豊かになっていくっていう、こういうことを語っていくわけですよ。これ、大きな夢を抱かせる。

勝つことだけを求めれば、きつともっと簡単な方法があるはずなんですけども、そうじゃなくて、社会のあらゆることを自分自身のコンコースで判断し、おかしいと思います。それを変えていこうとする、そういう人物を育てる野球になってるという風に言えるんじゃないかと思います。

ということでですね、今日のお話は、今回、注目された塾高野球部の姿勢っていうのは、単に、特殊なですね、一過性の、こう、個性、あのチームの個性、あの監督の個性っていうことではなくて、福澤諭吉門下生として、我々、慶應義塾に学ぶものが、ある意味、共有してるものの1つの現れた姿だっていう風にいうことができるんじゃないかと。学生スポーツは何か。という問いと向き合い、若者を育てることに真摯に取り組んできた慶応のスポーツの歴史。

それに日本のスポーツのが少し追いついてきたっていうのが、今回のこう試験の盛り上がりだったんで、エンジョイベースボールという言葉は、言わば独立自尊と同義であってですね、現代の福澤精神をどう生かしていくのかいうことを示す好例なのではないかという風に思います。

1番最後に、前田さんが残してる言葉の中で非常にあの好きな言葉をご紹介しますが伝統を守ることは、伝統に新しいものを付け加えることだということをやっています。前田さんはエンジョイベースボールという言葉はきつと付け加えたんじゃないか。我々はそれぞれ慶応で学ぶものとして、何か慶応の伝統に付け加えることができたらいののかなという風に思っております。

ます。どうもご清聴ありがとうございました。

考察： 慶應義塾高校が107年ぶりに甲子園で優勝するの实ならず、大学野球選手権でも慶應義塾大学が優勝することができたことを記念しての講演でした。一貫して野球を楽しむという学風を貫いてきたことは素晴らしいと思います。このような塾の姿勢は時にはふざけていると批判的になったりするわけですが、楽しみながらでも勝てるのだという実例を示すことができたことは良かったです。合理的な精神を忘れたところに悲劇が興されてきたことを私たちは忘れてはいけません。

慶応\_20231110\_石破

2023.11.21 火 午後 2:17 ・ 41分 4秒

koshi

慶應義塾全国議員連盟2023年11月10日

石破茂顧問による講演録

慶應義塾全国議員連盟幹事長 越川隆文作成



慶應義塾大学三田フアカルティ倶楽部にて 三田つるの屋にて

1.市長とか、上長とか、議員の方々も来られるんですが、例えば、介護とかですね、看護とかそういう、バッチ族じゃない方も、おいでになるのでありますが、私も、議員になって38年目も、上から数えて、7番目みたいなこといたずらに、儀礼の日を重ねておるのでありますが、評判の悪いことは、いや、私じゃないですよ、内閣のです、実によろしくない。バッチ族でもなく、首長さんでもなく、いわゆる、普通の人が、かなり辛らつな批判を述べるのですよね。これは、こう、こと、似てるかなっていうと、安倍晋三さんが最初に総理大臣になって、参議院選挙がありました。消えた年金とかね、なんとか、ああいうこと長妻さんが大活躍しておった頃ですか。あの時に、よせばいいのに、参議院選挙って、政権選択の選挙でもないんですけど、安倍さんが私を選ぶか、小沢さんを選ぶか、皆さんに決めてもらおうとかいう、いや、参議院選挙は政権選択の選挙じゃないだけだと思った。当選5回でしたけど、思ったんですけど、もう、むちゃくちゃ負けました。安倍さんやめました。あの時とちょっと似てるなっていう感じがします。私、当時、自民党の鳥取県連会長のですね、鳥取とか島根ってのはやたらめったら自民党が強くてですね、まず負けない。私も鳥取県自民党の得票率日本一、公明党得票率全国第2みたいな、そういう選挙なんですけれども、この鳥取が負けたんですよ、

参議院で。島根も負けだね。当時は世論調査って今ほど精緻じゃなかったんですが、もうその最後のね、10日間ぐらいでガラッと感じが変わっても、皆さん多分そうだと思いますけど、選挙カーに乗ってみると、大体この選挙、勝てるか負けるかわかりますよね。選挙カーって動員ができない、こう、町歩いてる人、動員できませんからね。だから、どれだけ手振ってくれるかみたいな、見てるわけですが、実に感じがよろしくない。でも、負けちゃったわけです。県内会長ですから、いろんな地域の自民党支部長さんとか、幹事長さんとか、すいませんとか言っっては見て歩いたんですけどね。そうすると、いやいや、ちょっと県連会長ね、うーん、あれは自民党の支部長だけど、母、よく知ってます。今度は民主党かなって人が結構いっぱいいたんですよ。

2.つまり、自民党は支持者なんだけど、自民党に入れなかったって人がいっぱいいた。あ、こういうことなんだと思ったんですよ。つまり、自民党支持者であることには変わりはないんだけど、ちょっと今の自民党は良くないかと。やっぱりこう変わってもらうためには、今回、別に好きでもないが、民主党に入れるしかないね。自民党の人が思うとああやって、ボロ負けに負けるんですね。あ、そういうことなんだなって思いました。もう一つ、あの麻生内閣んー、これから10数年前になりますが、300あった議席が119になってますね。3分の1に落ちてですね、大敗して、我々は野に下ったんです。農林水産大臣してましたけど、あん時はもうともかく、リーマンショックの直後でしたから、福田総理がお辞めになって、麻生さんが総理総裁になって、本当は麻生さん、すぐ解散したかったはずなんですけど、世の中、リーマンショックで経済がめちゃくちゃなことになってますね。もう1年の間に3回、補正予算を組んだんですね。ずっと予算委員会で答弁してたような記憶があるんですけど、政策的にあれ以外の選択はなかったとっております。政策が悪いわけじゃないが、自民党の立ち振る舞いは、300あたり119になっちゃうわけです。私も農水大臣、北海道から沖縄であちこち応援に回りました。会場がいっぱいなんですよね。なんだから市民会館とかね、なんだから文化ホールとか、いっぱい人がいるんです。候補者は、大臣みてる世論調査では俺は×とかついているけど、無印とかついているのにこんなに人がいるじゃないか。負けるはずがないとか。いや、それは違う。あんたはその無印とか落選危機とか仕事とか週刊誌に書いてあるから、これは大変と思って人が来てるだけの話、嘘だと思ったら、駅前で演説やったら全然ダメなんですよね。集会に集まる人の数って、あんまり当てにならなくて、動員もしてないのに、駅前で演説してみるとか。私、人の選挙カーにのってもそうです。自分の選挙カーでもそうなんですけど、ウグイス嬢にマイク持たせたことがなくてですね、必ず自分で喋ります。私が衆議院議員候補の石破茂です。何々町の皆さん、なんだかんだみたいなの。とにかく、私がつて言わないと、誰が喋ってるかわかんないんです私が言うのと、町名間違えると大変なことになるのでフリガナ振ってもらったりしたんですよ。町名も必ず。農作業ご苦労様ですって、これは絶対ダメ。

3.梨の袋かけご苦労様ですとかですね、スイカの選定ご苦労様です。何の農作業してるかみたいな、ちゃんと言えないと、あいつ農業のこと何も知らねえみたいなことになるわけでありませんが。ま、とにかく、自分でマイクを持ちます。自分でそうやります。反応っていうのを見てると、大体、本選挙どれぐらい票が出るかなってわかるんですよ。長くやってるってのは、で、ま、めちゃくちゃ悪くてですね、うん、300あったり、119ということで、似てる。安倍内閣の時は政策も何も消えた。年金も気に入らないが、この尊大な態度が気に入らないみたいなの。なんか似てるねっていう感じです。そもそもの発端は、経済成長の成果である。この大幅な税

収増を物価高に苦しんでいる国民の皆様へ還元したいという風に総理が言ったんですね。物事の発端はそこであって、さて、税収増ってのは経済成長の成果なんですかね。確かに円が安くて輸出製造業ってのぼろ儲けに儲けてるわけで、法人税は入らない方がおかしい。これは経済成長の成果なのだろうか。実質賃金は下がってんだけど、名目賃金が上がると所得税が入るので所得税は増収になる。これが経済成長の成果なんだろうか。うーん、物価が上がれば当然消費税は入ってくるわけでこれを経済成長の成果って言うんですかね。というようなことを普通の人が言うわけですね。そして、経済成長の成果である、たっておかしくないですか。物価高に苦しむ国民の皆様方に還元するって言うんだけど、うーん、物価高に苦しんでるのは政府も一緒でした。防衛予算をGDPの2パーセントとか、5年間で43兆円とか、威勢のいいこととしており、それはそれでありがたいことなんですけど、私が防衛大臣やってた20年前なんてのはイージス艦1300億円だったんですけども、今下手すると3000億円ぐらいします。ですからね、めちゃくちゃ高い。人件費も高い公共事業、労賃がめちゃくちゃ高いということで物価に苦しんでる。政府もそうなのですよ。そうすると、還元する原資なんてどこにあるのということになるわけですね。

4. 予算委員会でも全然その議論が深まらないんだけど、物価高はなんでおこってるのっていうと、それは円安で起こっているわけですよ。円安は天から降ってきたものでもなんでもないんです。円安になるように政策をやってきたわけですからね。そうなってるわけ。んー、減税だの給付金だの言ったって、それは一時的な効果はあるけど、それで円安が収まるわけでもない。物価高が止まるわけでもない。そこは一体どうすんですか。とかですね。ま、そういう、なんでしょう。そういう、まー、考えりや中学生でもわかる話なんですけど、そういう政策的な批判を普通の人々がし始めてるのは、かなり久しぶりの経験です。加えて、今日もあんまり眼鏡をかけていらっしゃる方はおられませんかね、増税眼鏡って、その岸田さんが好きで眼鏡かけてるわけじゃないけど、そこまで言わなくてもいいだろうと思うんですけどね。増税メガネだの増税くそメガネだの、増税ウソメガネだの、にやけた顔が気に入らないとかですね。もうなんだろうな、立ち居振る舞いまで批判されるようになって、なかなかしんどいという感じがいたしております。我が党の最高意思決定機関は党大会ですが、党大会って1年に1回しかないんですね。その次は両院議員総会、衆参両院議員総会なんですけど、これも国会開会の時しかやらないですね。通常は自民党の最高意思決定機関である総務会なんです。これは北海道ブロックとか東北ブロックとか北陸ブロックとか、ブロックごとに1人ずつ選ぶのと、あとは総裁指名総務会といって総裁選ぶ総務会があるんですが、私はなんとしたことか総裁指名総務会でした。去年は、あの中国ブロック選出総務会ってのは、鳥取、島根、山口、岡山、広島でぐるぐる回ってる。去年は鳥取県の番だったんです。私中国ブロック選出総務会でしたが、今年はなんと総裁指名総務会やったんですけど、ま、今日の総務会の議題は補正予算案、それから新たな経済対策についての承認を求めるの件、その反対意見も出ない承認するんですけど、

5. 私が言ったのは、これが経済対策です、これから補正予算ですって言うても、もうずっとこう字が書いてあって、数字が書いてあってですね、これ出したって人わからんその鳥取なら、鳥取、青森なら青森、北海道なら北海道その地域ごとにこの補正予算とはなんであるかとかですね。昔、友人の浜田さんが去年防衛大臣になっちゃったんで、臨時雇いその水産総合調査会長という水産政策の責任者、今でもやってんですけど、じゃあ、この補正予算ってのが水産の人たちの、私、今晚もかなり遅い新幹線で岡山までたどり着いてですね。明日、朝6時のバスに乗って地元に戻るんです。今、あの蟹が解禁になってるんで、明日の朝、その漁港で蟹祭

りってやるんで水産総合調査会長お前絶対きてねって言われてるんで帰るんですけど、この、じゃ、ここの漁港にとってこの補正予算とは何であるか、あるいは鳥取県にとってこの補正予算とは何であるか、ということそのイラスト付きでわかるようにしないと、補正予算の意図でない、やだ、どうせ増税でしょとかね、その一次証明でしょとかめちゃうと言われるわけ。そうではないんだってこと、やんなきゃダメだと。福田内閣の時に、テロ特措法の延長ってやったんですね。テロ特措法って何っていうと、9.11がありましたと。あれをやったのはアルカイダという連中でありまして。これは、アルカイダって国ではないの、国って、領土と国民と統治機構がないと国とは言わない。アルカイダ国ってなるわけでもないし、アルカイダ国民がいるわけでもないし、アルカイダ政府がやってるわけじゃない。9.11は、どんなに人がたくさん死んでも、あれは犯罪なんですよ。戦争ではないわけ。そうすると、その警察権しか使えないはずなのだが、が、そのタリバン政権という、アフガニスタンのタリバン政権がアルカイダをかくまっているのアメリカの警察権がリストアウトされてるのでアルカイダを叩かないとどうにもないじゃない、アルカイダを捕まえるためにはアフガニスタンを叩かなきゃダメだという構成を取ってですね。個別的自衛権のアメリカを行使し、NATOは集団的自衛を行使したんですが、

6. そのインド洋あのアフガニスタンにインド洋を通過して麻薬とか弾薬とか資金とか運ばれちゃたまらんのインド洋に各国の船が展開をしてですね、物資とか資金とか麻薬とか、そういうものを運んだ船が通らないように見張ってる。ただ、そこに原子力動力艦は派遣されませんでしたので燃料が切れたら港へかえる。そうすると、その隙に、怪しいのが通ると、大変なんで日本の補給艦を浮かべて、うーん、ただで燃料を補給すると、これがそのテロ特措法の内容だったわけですが、これ、時限立法でしたの期限がきて切れます。あの時、あの参議院はなぜ、安倍さんの時に負けちゃってますから、参議院で我々で党は過半数を持ってなくてですね。参議院で否決される、衆議院に戻して3分の2の多数で再成立するしか手はないということなんですけども、ま、これまた評判の悪い法律でして、もうしょうがないので。その時の外務大臣は高村さんでした。官房長官は亡くなった町村さん私は防衛大臣でしたが、もう高村外務大臣、町村官房長官、私は防衛大臣、3人がですね、渋谷とか新宿の街頭に立って、なんでテロ特措法を延長しなきゃいけないかって演説会やったんですね。それは票にもならないし金にもならないんだけど、政府が何をやるかとしてるかってことは、日曜討論なんて見てる人まずいませんから。国会中継なんて見てる人はもっといませんからね。それはもう大臣が街頭でやってるよって姿勢が大事なのであって、今度の経済対策でも補正予算でも、街頭に出なきゃダメですよ。わかるような、地域にとって、それぞれの業種にとってどういうものなのかってこと、説明しなきゃダメですよ。やるかやらないかしんないけど、誰かがそう言わないと動かない、そんなこと言っておるわけでありまして。結局その令和はもう5年目になってですね、令和って一体なんだったんですかね。じゃない。失礼。令和の時代ってなんなんでしょう。政治家って、皆様方もそうかもしれませんが、なんとなく気宇壮大な話が好きですね。皆さん今100年に一度の歴史の転換点になって演説をするんですけど、100年も生きてる人は誰もいない。昭和の終わりっていうのを我々は体験してるわけですね。

7. 当選昭和64年、平成元年っていうのは、昭和64年で7日間しかなかったんですよ。昭和63年の11月ぐらいから、ちょうど今頃でしたかしら、その当時、ブラウン管のテレビでしたけど、もうテレビの隅っこになんてですね、今日の天皇陛下のご容態がずっと出てましたんでしょ、血圧なんぼ、脈はなんぼ、体温なんぼみたいのを。そのようなことがずっと書いてあったわけ



で、昭和終わるんだなって覚悟、我々もしました。それで平成のみよを迎えるわけですが、その上皇様、先帝陛下、平成の天皇様は、自分が元気なうちに皇位を譲りたいとも。天皇は、その憲法に書いてある限定列举の銃の国事行為をすればいいのではない。震災の現場に行き、あるいは激戦地のお一、慰霊碑に行き、あるいはハンセン病の施設に行き、その膝をついて、皇后様と一緒に各地を回られて、国民を励まして、国民を勇気づける。それは元気でなきゃできないんだ。だから元気なうちに行き、皇太子に譲りたいんだと仰せになったのだと思います。よかったよかったと思う中、平成から令和に身代わりするわけですが、そうであるだけに平成ってなんだったの?っていうのはあんまり考えることなく今の時代を生きてるような気がするんですね。平成ってのは多分戦後が終わった。間違いなく戦後が終わったのが平成だと私は思っています。角栄先生が、あの戦争に行ったやつがこの国の中心にいる間は日本は大丈夫だ、だけど、あの戦争に行ったやつが日本国の中心からいなくなった時は怖いんだ、だからよく勉強してもらわなきゃいけないんだってことを先生おっしゃってましたが、もう、もうまだご存命の方も犬勢いらっしゃるかもしれませんが、あの戦争に行った人でこの世の中を中心にいる人はいないわけです。戦後は終わったんだ。終わったとは言わないが、民主主義はめっちゃくちや変容を遂げておってですね、この間の徳島高知の補欠選挙なんていうのは投票率24パーセントですから、4人のうち3人はいかないわけですよ。だから、常に自民党は少数説ですが、投票は義務制にすべきだと思ってましてね。自分の住んでる地域がどうなるかが、自分の国がどうなるかが、税金をどのように使われようが、どんな外交をやられようが、そんなことには関心ありませんみたいな国がまともになるはずはないのであってですね、投票するのは国民の権利であると同時に義務だと思ってます。

## 8.

義務投票制は無理っていっぱいあります。そうすると、入れたい党がない、入れたい議員がないとか言うんだけど、だったら行って白票入れりゃあいいんで、わたし、投票義務制論者なんですけど、国会の議論っていつからこんなにレベル下がったかなと生意気なこと私は思うんですけど、そこでもっと聞けてのがあるわけですね。野党の質問でかつて、その民主党が政権取ろうとしてた頃は、予算委員会なんてですね、もう前原誠司くん、2時間とかですね、枝野幸男君の2時間半とかですね、岡田克也君、60分とか、質問票を見ると、こっちは目の前が暗くなってですね、早く終わんねえかなと思って時計見るんだけど、そういう時に限って全然時間は進まないですね。私たち野党の時もそうでしたけど、質問って1人が最低1時間半は持って、1時間半の質問数を3日間ぐらい準備するわけですね。こう聞いたらこう答えて、こう答えたらこう聞いて、こう答えたらこう聞いて、みたいな。最後にこう持っていくっていう質問がくるのは、この3日間ぐらいかかりましたよ。あるいは、今週、野党の時に、私、最後の1年は予算委員会の1人でやってたんですけど、私が筆頭、次席が小池百合子さん2人しか理事はいないとかいうね、そういう悲惨な野党だったんですけど、今週はこの大臣クビにしようとかって決めてですね、はい。今週は田中直樹をクビにしようとか。また、民主党って善良な人たちの集まりでね、予算委員長が予算委員会を開く権限持ってんですけど、閣僚の質を問うなんていうテーマで予算委員会やりましたからね。恐ろしいことではありますけど、うーん、そうすると、バンバン閣僚が首にできるんですけど、なんかそういう戦略がないですね。議論もつまらない。メディアと権力が癒着すると国は滅びると私は思ってるもんで。ま、とにかくメディアの追っているのめっちゃくちやあって、こんなことで本当に大丈夫か。メディアがちゃんとしてれば太平洋戦争なんかならなかったはずですよ。その有敢に中国で戦うわ、行軍みたいな、そんな妨害作れば新聞が飛ぶように売れますからね。戦争を煽ったのはメディアもいつ

ばい煽ってるわけですよ、議会で。本当のこと言うと、斎藤隆夫みたいですね、田島戦術の衆議院除名だったりするわけですね、みんな黙っちゃうわ。

9.

やっぱり民主主義ってかなりおかしくなって、その総理が新しい資本主義っておっしゃるんですけど、私は法律学科なんで、もう経済でちゃんと勉強したことが実は1度もありません。1度もありませんが。多分、経済っていうか消費主義ですね、人口が増えるってのはやっぱり必要条件なんだろうね。必要十分条件とは言えませんが。ま、お客さん、あれって消費が栄えるはずはないのであってですね。だけど、人口はご存知の通り、21世紀って日本の人口は半分になって、世界の人口は倍になるのが21世紀なんですからね。今年、世界の人口は初めて8億を超え、今年初めてインドの人口が中国を抜いてるわけですけど、日本は2100年には人口は5200万人になりますね。200年経つと1391万人になりますのでね、人口は恐ろしく減るわけですよ。少子化対策っていうけど、必要なのは、母が少ない、少母化対策が必要なんです。うんならこんないいことがありますよって言うんだけど、その前に、結婚できない人が山ほどいるわけで。飛行機のビジネスクラスに乗ったら、こんな美味しいご馳走出ますよとか、こんな美味しいワイン出ますよったらいいんだけど、そもそも飛行機に乗れない人はどうしてくれるって話であってですね、とにかく、人口はめっちゃくちゃ減って、消費が下がるって、よくわかんない。金利ってのはお金の値段ですから、これが限りなく0に近い、もしくは0に。マイナスというのは、お金の世界で市場原理が働かないってわけだから、必要なところにお金が行かない必要じゃないところにお金が滞留するってことが当然起こるわけであってですね、金利が正常に機能しないで消費者が栄えるとは思えない。私はもう経済学を全く知らないんで名前しか知りませんが、ドイツの経済学者でゾンバットってのがいてですね。この人は恋愛と贅沢と資本主義というめちゃくちゃ面白い題名 論文を書いていますね。18世紀のフランス王朝が舞台なんですけど、それはフランス料理だのベルサイユ宮殿だのロココ調の芸術だの。ま、めちゃくちゃ贅沢が流行った時代でしたね。それが庶民に伝搬して資本主義経済が発展していくというのを書いてある論文なんですけど、要は、贅沢願望がないと、資本主義発展しないんだそうですね。

10.

いい車欲しいな、いい音楽聞きたいな、いいお家に住みたいな、美味しいもの食べたいなみたいな話。要は、GDPって付加の総和ですから、うん、この金払ってもこんな車乗りたいなみたいな、そういう贅沢が、今あるんだろうかっていうと、私、地方創生大臣の時に多摩川大学で90分の講義をしたことがあるんですね。1年生相手に。だから、18歳、19歳です。700人ぐらいいたかしら。君たちの中。休みの日に彼女を隣に乗せて車でドライブしたい人、手を挙げてって言ったら、1人も手挙げてくれない。5年ぐらい前の話。愕然として。もう1回聞くけど、君たちの中で彼女、お休みの日に隣の席でドライブした人って、やっぱり1人も手挙げられなかったですね。おじさんって私のことですけど、おじさんが学生とかサラリーマンの頃はね、一生懸命アルバイトしたら、一生懸命働いて、40万とか50万ですけど、サニーとかカローラとかね。もちろん窓は手で開けるんですよ。マニュアルミッションですよ。冷房なんかついてないですよ。うーん、でも、そういう中古車買ってですね、彼女を隣のせてドライブするのが夢だったんですよ。その願い通じて努力が実ってというべきか。明日はドライブデートがあって、前の晩はですね、徹夜でテープ編集したんだよ。ここはサザンだよとかね、ここはかのようだよ。ここ中島みゆき、やっぱさすがにまずいよねとか、みんな寝ずに練習したんだよっていうとね、学生の1人が、テープ編集ってなんですか?です。えらい時代になったもんな

と思ったんですけどね。うん。ことほど左様にそういう学校が少なくとも我々の時代よりはなくなってると思うんですね。そういうのがこうなくなっていく時の資本主義ってなんなんだろうということ考えた時に、また、その成長と分配の好循環っていうんだけど、それは昭和30年代に電気冷蔵庫の電気洗濯機と白黒テレビ、昭和40年代のカラーテレビとクーラーと自動車というように、同じものを安くたくさん大勢の人で作る。作るのは日本人であって、それを海外で売るっていうと、成長と分配、確かに好循環すごいんですね。

11.

だけど、外国で作って外国で売るってことになる、そこに登場するアクターは外国の労働者と日本の消費者であって、そこに日本の労働者はいないわけですよ。そうすると、成長と分配ってひよっとしたら循環しない、トレードオフとは言わないけれど、そういう風に変質してんじゃないの。っていう気が私は最近してるんですけど。資本主義ってなんなんだろう。少なくとも資本主義が大きく変質することは間違いなくて、民主主義も戦後が終わってそれが現世という時代だったとすれば、さあこの時代どうやって生きるの。って、もう少しきちんと議論した方がいいんだと思います。長いお話はあと3分で終わりますが、冷戦が終わって、NATO拡大するのしないのって議論してた頃、アメリカクリントン政権でした。私、防衛庁長官、変わって防衛大臣になる前の2年間ちょっと空いてた自民党政調副会長なんかやってたんで、NATOの拡大ってなんなんだろうと思って、ハンガリーいって見たことあるんですね。1週間ぐらいいましたけど。あのプラモデルしか作ったことがない。T55とかね、T72とかね、ああいう、そのソ連製の戦車をいかにしてNATO仕様にするかってんで、めちゃくちゃ頑張ってたけど、どう見てもならないわけですよ。戦闘機だろうと戦車だろうとなんだろうと、いかにしてNATO仕様にするかって考えた時に、やっぱりアメリカとかイギリスとかフランスとか、主にアメリカですけど、そこに巨大な市場があるんですね。こういうことなんだろうなって思ったことはよく覚えてます。ゼレスキーは善でブーチンが悪の権化みたいに言われるんだけど、ま、そうならもし、アメリカバイデンがロシアに対してウクライナに手をかけてみると、アメリカは集団的自衛権を行使して、ウクライナから救援要請があった場合にはロシアの侵略は断固として阻止するって言うたら、あれは起こってないですよ。いや、ウクライナはNATOに入っていないからって言うんだけど、同盟条約の存在は国連憲章51条の集団的自衛権行使の必須要件ではないわけですよ。

12.

これは一体なんなのかっていうことを考えてみるとですね、こう、ウクライナの、ロシアのエネルギーと食料が自給できるもんで財政は日本よりも健全なのでそう簡単にあれは終わらないと思っています。多分10年は続くだろうと思ってるあいだに、今度はパレスチナだ。ユダヤ教の神様と、キリスト教の神様と、イスラム教の神様、同じ神様ですから。なんでこんなことやってんだっていうと、結局、ユダヤ教の神様は、いるわけだが、イエスキリストというのは現れて、イエスキリストが、また、ユダヤ教が信じてるのは、モーゼのモーゼの十戒みたいな律法なのであって、イエスキリストが、三位一体説って唱えるわけそれはおかしいじゃないかとかっていう、ユダヤの律法学者がいつてですね、十字架にかけちゃうわけですよ。ローマの総督がこのイエスはなんか悪いことでもしたのか。なんで十字架に掛けなきゃいかんのかと問うわけですが、ユダヤ人は俺たちが責任持つとか言って、十字架にかけちゃうわけですよ。そうすると、キリスト教徒はユダヤ教徒が許せないんだということになるんだけど、アウシュビッツだのなんなのかっていうの。あんまりひどいことしたんで贖罪意識もあってですね、そ

のキリスト教とユダヤ教はそこで融和するわけですが、そこへまた、イスラム教というのが7世紀かな、ぐらい出てくるわけ日本人は何がなんだかよくわかんないんだけど、その約束の地である。最初はイスラエルってのはアフリカでもいいし、南米でも良かったんですけど、やっぱり旧約聖書に書いてある約束の地だってことであそこになるわけですよ。ところが、それはキリスト教徒とユダヤ教徒の話であって、イスラム教と関係ないわけですよ。なんで俺たちの土地にこんな来るんだみたいなことになって、ああいうことになってるわけですけど。そのユダヤ教がなんであり、キリスト教がなんであり、イスラム教がなんであり、どうしてこんなことになっているのか。ネタニヤフ政権ってのは極右政権ですから、ものすごいラジカルなわけですね。トランプ政権と親和性があるって、エルサレムを首都になんかしちゃったりするわけ。

13.

トランプは俺に任せると。俺に任せればウクライナ戦争をやめてみせるって、もうウクライナを応援しないよって言うてるわけですよ。イスラエルがどうするかよくわかんないですけど、何がどうなるかちょっとよくわからない状況なわけです。日本は防衛費を倍にしたところそれがどうしたって話であってですね、いざとなった時に本当に日米同盟機能するんですか。朝鮮半島有事の時に出てくるのは日米同盟じゃないですから、朝鮮国連軍が出てくるわけですからね。あそこ、今でも急戦状態なわけ。台湾は日米同盟が出てくるんだけれども、これは事前協議を必要として、嘉手納使っていいですか、岩国使っていいですか、三沢は使っていいですか。アメリカ、日本に対して同意を求めてくるわけそれが日米安全保障条約であり日米地位協定ですから。もちろんどうぞお使いくださいって言わなきゃいかんのやけど、中国が使わせたら核ミサイル打ち込むからねって言われたら、多分日本政府は腰が抜ける。そんな時どうするかってことを考えとかなきゃいかんのですけれども、これが朝鮮半島で起こった場合には、朝鮮国連軍地位協定に基づいて日本に朝鮮国連軍の基地は7つあるんですけど、この仕様については事前協議を必要としておりませんので朝鮮国連軍、ま、アメリカ司令官ですが、使うって言ったら、日本の同意必要ないわけで、その2つが組み合わせたら何がどうなるのよということをやちゃんと突き詰めとかないと、えらいことになるわけなんですよ。それは韓国のユンソニョル政権の間にきちんと詰めておかないと、またなんでしよう、その左寄りのって言い方はいけません、日本と親和性のない政府が出てくる、こんなん議論になりませんので、今ちゃんとやっつかないか言わなきゃいかんこといっぱいあるんだらうと思っております。ですので解散総選挙は多分長引くそうです。来年のいつかですけどね、長引くんだらうです。ですけど、そんな時に、その今くくだいいろんなことを申し上げましたが、経済はどうなの、財政はどうなの、外交はどうなの、安全保障はどうなのってことについて、私は有権者の方々ってきちんと語れば聞いてくれると思うんです。

14.

そこへ向けてちゃんと真摯に誠実に医療、生前とお話をするって姿勢を、我々政府与党もそうですし、政権を取ろうとする野党の皆様方もそうですし、私はね、この程度の国民にこの程度の政治家ってことはできない。やっぱり我々はその政治をなりわいとしてるわけで国民に向けて語る責任は我々が持ってるんですよ。それが、この程度の国民にこの程度の政治家なんていうことを自分たちで認めちゃったら、それは自己否定以外の何者でもなくて、あの福澤先生がおっしゃってる言論ってのはそういうことなんだらうと思っております。ですから、我々、慶應義塾に学ぶ、うーん、国会議員であつたり、あの一都道府県議会議員であつたり市

町村会議員であったり、あるいは首長さんであったりしますが、あの経済界もそうなんですけど、やっぱりその我々三田の、ネットワークってのは、あの一福澤先生の教えであるところなんです。とにかく、みんながみんなその官僚主義みたいになったらどうにもならないわけ民間が、在野が、言論の力経済の力でいかにして日本を動かすかということをお国において、きちんと確立をするのが我々慶應義塾に学んだものの責務ではないかなどと、ぴったりお話終わりたいと思いますが、ぜひぜひ、首長さんでも、うーん、議員さんで大勢三田会の人っていうらっしゃると思うんです。選挙の時に、三田会って役に立たないですからね。とあって、結構、役に立ってるか知らないけども、三田会って、あんまり役に立たないんです。三田会パーティー券もそんなに売れませんが、んー、票でもなく、金でもなくですね、本当にこの日本国にいかなるこ政治経済を打ち立てるかということについて、また皆様と共に語ることができれば、これ以上なく幸いです。え。時間を超過いたしましたこと、お詫びを申し上げます。おわります。

考察： 当選回数最多の修羅場をくぐってこられた政界の勘が働いたのか。このころはまだ裏金問題は表面化していなかった。しかし、あたかもそれを予言するかのように、今こそ政権政党は綱紀粛正をはからねばならないと現状を喝破されたところはさすがである。最後の三田会のパーティー券お話が出てきたのも意味深長だ。